

第2次奈良市市民参画及び協働によるまちづくり推進計画

令和2年度 事業評価シート
(協働事業)

協働事業

No.	1	事業名	自治連合会等活動推進							
部名	市民部		課名	地域づくり推進課・各出張所・行政センター						
総合計画上の 位置付け	章	第1章	市民生活		展開方向	①	地域活動の推進			
	基本施策	1-01	地域コミュニティ、交流（地域間交流）			地域住民に対し、奈良市自治連合会と協働して、防災防犯、高齢者支援、子どもの見守りといった様々な地域コミュニティ活動への参加を促し、住民の地域コミュニティへの帰属意識向上に努めます。				
	施策	1-01-01	地域コミュニティの活性化							
相手方の名称	奈良市自治連合会、各地区自治連合会			協働事業の実施手法		補助・助成				
実施の時期	通年			事業開始年度		—				
令和2年度事業費	予算額		14,684		決算額		14,418		（単位：千円）	
事業の 概要・目的	地域の対話促進及び地域コミュニティの推進に必要な取組を行う奈良市自治連合会及び各地区自治連合会へ交付金を交付するとともに、各地区の担当職員である「地域づくりコーディネーター」が地域活動の支援を行う。									
目標指標	指標名		自治会加入率							
	単位	%	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
			目標値	78.0	79.0	80.0	72.0	72.0	70.0	
令和2年度 取組内容			実績値	75.1	74.1	72.9	71.4	69.7		
			奈良市自治連合会及び各地区自治連合会へ交付金を交付するとともに、各地域を担当する「地域づくりコーディネーター」による地域活動への支援や、地域の各種団体が連携・協働する「地域自治協議会」の設立に向けた取り組みを行った。また、各種団体補助金・交付金の地域自治協議会への一括交付金化に向け、関係課・関係団体と協議を行い、制度設計を行った。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由								



令和２年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
← できた	← 少 し で き た	→ ど ち ら と も 言 え な い	→ あ ま り で き な か っ た	→ で き な か っ た	自主性尊重	（行政）協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
						（協働相手）自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		
					自立化	（行政）協働相手の自立化を進められましたか。	3	
						（協働相手）行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
					相互補充	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	4
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	3
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	3
					評価点			

総合点	76	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	



	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	市自治連合会、地区自治連合会の活性化を図ることにより、自治会活動等の地域コミュニティ活動が促進され、地域コミュニティの再生の一助になっている。 市の行政運営上、自治連合会との連携・協力は不可欠であり、今後も連携を密にしていける必要がある。	奈良市と市自治連合会との協議や計画推進により、相互理解を得て地域活動が円滑に進んで行くようになってきたと思う。同じ目的・課題に協働して取り組むことは、“イコールパートナー”として今後も継続してしっかりと連携して行きたい。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	地域自治協議会の設立推進について、奈良市自治連合会の地域自治協議会検討委員会と協力・連携することにより、未設立地区へも取組が広がるよう努めていきたい。また、自治会加入率が低下し続ける中、加入促進の方策を共に検討していきたい。	自治会加入率、自治連合会加入率の低下に歯止めがかからない。このままでは自治連合会加入率50%を下回り、自治連合会の存続も危ぶまれる。地域自治協議会の拡充には行政の支援が不可欠であり、今後の課題解決に向け熟議する必要がある。

協働事業

No.	2	事業名	奈良市ボランティアセンターの運営						
部名	市民部			課名	地域づくり推進課				
総合計画上の 位置付け	章	第1章	市民生活			展開方向	①	ボランティア・NPO活動の活性化	
	基本施策	1-01	地域コミュニティ、交流（地域間交流）				ボランティア活動の拠点施設として、市民の活動を支援するための奈良市ボランティアセンターの充実を図るとともに、奈良市ボランティアインフォメーションセンターにおいて、より幅広い公益活動に関するきかけづくりを推進します。		
	施策	1-01-02	市民交流の活性化						
相手方の名称		（社福）奈良市社会福祉協議会			協働事業の実施手法		指定管理		
実施の時期		通年			事業開始年度		平成18年度（指定管理者制度導入年度）		
令和2年度事業費		予算額		26,589		決算額		26,566（単位：千円）	
事業の概要・目的		市民の地域福祉活動への積極的な参加促進を図るとともに、さまざまな分野で広がりを見せるボランティア活動を支援し、やさしさとふれあいのある住みよい奈良のまちづくりを目指す。							
目標指標	指標名		利用人数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	21,400	21,675	21,950	22,225	22,500	22,500
			実績値	19,904	19,893	22,068	18,448	6,996	
令和2年度取組内容		指定管理事業に加え、ボランティア活動上の事故等のリスクに対応すべく、各種ボランティア保険の加入促進や年々増加傾向にある事故への迅速な対応をはかる。また、奈良市における災害ボランティアセンターの運営体制の調整整備を引き続き調整していく。							
今後の方針		継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和２年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	4
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	5
← ← → → できた 少しか どち あま でき なかつた	←	←	→	→	自主性尊重	（行政）協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	5
						（協働相手）自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		
	自立化	（行政）協働相手の自立化を進められましたか。	3	4				
		（協働相手）行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。			4			
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。					4	5
	相互補充	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。					4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。					5	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。					4	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。					5	4
評価点							37	40

総合点	77	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	



	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	ボランティアセンターの設置目的である、市民の自主的な参加による自発的な活動の促進、市民福祉の向上について、指定管理者が指定管理料を効果的に配分しながら、自主事業を展開するなど、費用対効果に優れた管理運営を行うことができた。また、ボランティア登録制度の運営やコロナ対応にも適宜話し合いながら進めることができた。	奈良市個人登録制度の始動により、奈良市と2拠点が協働することができた。また、新型コロナウイルス感染拡大防止対策についても、当館の利用状況等を鑑み細やかなよりよい対応について柔軟に提示していただいたことにより、制限のある中でも運営しやすかった。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	今後も市民活動の拡充、グループ間の交流、活動の支援、利用促進、ボランティアセンターとしての機能の整備などについて、一段と積極的な取組が行われることを期待する。また、ボランティア登録制度においてボランティアセンターは情報の発信を担うことから、創意工夫をし登録者が増えるよう尽力していただきたい。	多様化する市民ニーズに対応するため、指定管理者として行政機関の様々な部署との調整が必要となり、指定管理者のみで連携調整を図ることは難しく、地域づくり推進課が他部署との調整を円滑且つスピーディーに管理運営が図られるよう橋渡しの窓口を担ってくださり大きな力となっている。 個人登録制度が奈良市、ボランティアインフォメーションセンター、当センターとの協働事業となって始動したが、直接奈良市とつながっているボランティアインフォメーションセンターと当センターとの連絡等のスピード感については違いを感じた。

協働事業

No.	3	事業名	にぎわいのあるまちづくり事業							
部名	総務部			課名	総務課保健所教育総合センター管理室及びセンター内全課					
総合計画上の 位置付け	章	第1章	市民生活			展開方向	①	ボランティア・NPO活動の活性化		
	基本施策	1-01	地域コミュニティ、交流（地域間交流）				協働によるまちづくりを推進するために、市民やボランティア・NPO、自治会などの市民公益活動団体と行政との役割分担を構築し、市民相互の活動を支援します。			
	施策	1-01-02	市民交流の活性化							
相手方の名称	JR奈良駅西地区の自治会				協働事業の実施手法		実行委員会・協議会			
実施の時期	通年				事業開始年度		平成23年度			
令和2年度事業費	予算額		370		決算額		4		（単位：千円）	
事業の 概要・目的	地域住民と市職員が協働して「にぎわいのあるまちづくり事業」を実施する。この事業は、市場やコンサート、セミナー等などの集客イベントを実施し多くの市民の方に、はぐくみセンターを知っていただき、有効利用していただくこと、地域の活性化を図ること、JR奈良駅西のまちづくりに寄与することを目的とする。									
目標指標	指標名		来館者数の増加							
	単位	千人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
			目標値	200	210	220	220	220	-	
			実績値	204	219	222	214	89		
令和2年度 取組内容	JR奈良駅西まちづくり運営協議会（地域住民と職員）において年間事業計画を決定したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため事業を中止した。また、地域から選出された委員と協議を重ね、来年度の事業計画に繋げた。									
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由								



令和２年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価	
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。			5
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5	
←	←	→	→		自主性尊重	（行政）協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5		
						（協働相手）自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。			3
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	（行政）協働相手の自立化を進められましたか。	4		
						（協働相手）行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。			4
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5	
						相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	4
							公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4
						相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
						期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	1
評価点							41	34	

総合点	75
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価					B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	新型コロナウイルスの影響で年間の事業は中止となり来館者数は目標値に達していないが、クリスマス用のリースを作成し地域に配布するなど工夫しながら協働事業を継続し、パートナーとしての絆を深めた。	コロナ禍の影響でイベント等の事業は中止せざるを得なかった。特にコロナ対策で保健所機能をパワーアップしていく必要が生じ、自粛することとした。しかし、その中でもやれることは何かと問いかけ、模索しつつ相互理解を深めた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	本年度は、新型コロナウイルスの影響により事業が中止となってしまったが、パートナーと連携を取りながら協働事業の方法等検討していく。	JR駅西のにぎわいづくりを協働事業として立ち上げて10年の節目を迎えた。折しもコロナ禍は、立ち止まって新生活様式に見合った事業のあり方を検討する機会と捉え、非公式協議を重ねた。

協働事業

No.	4	事業名	男女共同参画活動団体協働事業									
部名	市民部			課名	男女共同参画課							
総合計画上の位置付け	章	第1章	市民生活				展開方向	①	あらゆる分野の政策・方針の決定及び実施の場への女性共同参画の推進			
	基本施策	1-02	男女共同参画					男女共同参画の視点を持ち、あらゆる分野で活躍できる女性の人材の育成と活用に努めます。				
	施策	1-02-01	男女共同参画社会の実現									
相手方の名称		女性団体等				協働事業の実施手法		共催				
実施の時期		通年				事業開始年度		平成17年度				
令和2年度事業費		予算額		1,135		決算額		760		(単位：千円)		
事業の概要・目的		男女が互いにその人権を尊重し、喜びも責任も分かち合い、性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮できる社会の実現を市民参画によりめざす。										
目標指標		指標名		「市民講座」の受講者アンケートによる満足度を令和3年度を目標に85%までに上げる。								
		単位		率 (満足度)	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
				目標値	92	70	75	80	85	85		
				実績値	61	66	71	82	77			
令和2年度取組内容		市民団体及び市民グループ企画の市民感覚から発した「市民講座」とすることで市民のニーズに合った講座を開催し、チラシ・ポスター作成、しみんだよりやホームページへの掲載、マスコミ等への広報を行うことで講座の周知を図る。また、参加率やアンケート結果を踏まえ、次回へとつなげる。										
今後の方針		継続	拡大、縮小、廃止の理由									



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	4	
できた 少しで きた ど ち ら と も 言 え な い あ ま り で き な か っ た で き な か っ た					自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
					相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
					評価点		39	39

総合点	78
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A 評価	B 評価	C 評価	D 評価	E 評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	女性の自立や男女共同参画に関する活動をしている団体から企画案を出してもらうことで市民ニーズにあった内容の講演会を開催することを目指した。それらを企画・立案の団体と協働し、様々な意見を事業に反映することで男女共同参画社会への実現へ寄与できた。	・ 広報面や当日の運営において協力が得られた。 ・ 参加者が少なく男女共同参画の理解が得られにくく、講師の要請をするのが難しかった。 ・ 目的に合致した内容で取り組み出ている。特に一般市民と一緒に学ぶことは、当団体会員に刺激をあたえている。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	市民講座の満足度においては、目標値に達することができず、内容がニーズに合ったものであったか次回開催に向けて検討する必要がある。また、団体の高齢化と加入者の伸び悩み等で事業実施が困難にならないよう団体の育成についても考えていきたい。	・ より広いところで多くの人に参加してもらいたかった。 ・ 会場が2階でエレベーターがなくバリアフリー対策が必要。 ・ 男女共同参画に関して、他団体の会員と勉強会などで交流を図ってきたい。 ・ 市民講座のアンケートで次に取り組む検討課題が見えて大いに参考としている。当団体の最大課題は、会員の高齢化と新規加入の勧奨。団体のPRと加入募集にもよい機会と捉えている。

協働事業

No.	5	事業名	地域人権教育支援事業						
部名	市民部		課名	人権政策課					
総合計画上の位置付け	章	第1章	市民生活		展開方向	①	人権教育の推進		
	基本施策	1-03	人権・平和			地域における人権教育の推進を図るため、奈良市人権教育推進協議会と協働・連携します。そして、地域活動としての人権学習を通して人権問題への認識を深めることにより、全市レベルでの市民意識向上に努めます。			
	施策	1-03-01	人権と平和の尊重						
相手方の名称	奈良市人権教育推進協議会			協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年			事業開始年度	昭和48年度				
令和2年度事業費	予算額	1,458		決算額	1,340		(単位：千円)		
事業の概要・目的	行政と市民との中間団体である「奈良市人権教育推進協議会」と協働し、地域における人権教育の推進を図り、「奈良市人権文化のまちづくり条例」の具体化を図る。								
目標指標	指標名	活動地区数の増							
	単位	地区	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	40	40	40	40	40	40
			実績値	33	32	32	29	15	
令和2年度取組内容	運営団体のあり方や事業実施について、より自主的な活動を行えるよう、また、参加者が増えるよう双方協議し、新型コロナウイルス感染対策について十分配慮しながら開催できるよう事業内容、運用面で創意工夫したが、新型コロナウイルス感染症拡大のため開催を予定していたが実施できなかった講座（指導者講座、人権講座）や開催したが途中で中止となった連続講座（なるほど人権講座）もあった。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	—	—
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	—	—
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	—	
できた	少しで きた	ど ち ら と も 言 え な い	あ ま り で き な か っ た	で き な か っ た	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	—	
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	—	—
					相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	—	—
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	—	—
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	—	—
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	—	—
					評価点			

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

協働事業

No.	6	事業名	地域で決める学校予算事業（地域学校協働活動本部）						
部名	教育部			課名	地域教育課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化			展開方向	①	教育内容の充実	
	基本施策	2-01	学校教育				地域教育協議会の強みを生かし、地域と連携した教育活動支援を推進します。		
	施策	2-01-01	特色のある教育の推進						
相手方の名称	地域教育協議会				協働事業の実施手法	委託			
実施の時期	通年				事業開始年度	平成20年度			
令和2年度事業費	予算額		65,597		決算額		54,524		（単位：千円）
事業の概要・目的	中学校区を単位として、地域全体で学校を支援し、子どもたちを守り育てる体制をつくり、子どもたちの教育活動の充実と地域の教育力の再生、地域コミュニティの活性化を図る。地域と学校が連携・協働し、中学校区で取り組む事業と、各学校園で特色のある教育活動を実施するために取り組む事業を全中学校区で実施する。								
目標指標	指標名		会計担当者設置校区数						
	単位	校区	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	13	15	17	19	21	21
			実績値	12	12	14	15	15	
令和2年度取組内容	これまでに引き続き、各中学校区地域教育協議会に事業委託を行うとともに、地域教育協議会と学校が「目指す子ども像」を共有した上で、連携・協働しながら地域全体で子どもを守り育てる体制づくりを支援した。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で臨時休校や活動自粛となり、活動の規模は減少したが、地域で十分な対策をとりながら、できることをできる範囲で実施した。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 ← できた	4 ←	3 →	2 →	1 →	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	4
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
	自主性尊重	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	4				
			(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4			
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4				
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4				
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	3				
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4				
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4				
	評価点							38

総合点	73
行政・協働相手の評価点を合計して算出 （※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	各地域教育協議会と学校がめざす「子ども像」を共有することで、地域全体で子どもを守り育てるという意識がさらに高まった。また、子どもたちの学びの場・体験の場がさらに多様になった。	・奈良市の目指す地域と学校との連携の方向性やビジョンが明確になった。 ・事業を通して、学校を中心とした地域コミュニティが構築されつつある。地域全体の防犯意識の向上や、子どもの見守りにおける地域のつながりが強化された。 ・コロナ禍の中、できる事を互いに模索し、工夫して活動することができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	地域人材の高齢化や固定化、事業を継続していくための次世代の地域人材不足が多くみられる。人材育成を目的とした研修の実施、SNS等による広報活動をより一層強化するなど、地域人材の育成や確保するための工夫が必要である。	・予算額に関わらず、この事業はぜひ継続してほしい。 ・会議等に参加して、改善すべきことや令和2年度のような予期できない事態で事業実施が難しい場合の対応等についてアドバイスしてほしい。 ・行政内の縦割意識を無くしてほしい。 ・事務手続きの簡素化。

協働事業

No.	7	事業名	教育センター学習事業						
部名	教育部			課名	教育支援・相談課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化			展開方向	①	教育内容の充実	
	基本施策	2-01	学校教育						
	施策	2-01-01	特色ある教育の推進						
相手方の名称	ボランティア団体・NPO法人・民間研究大会			協働事業の実施手法		事業協力			
実施の時期	通年			事業開始年度		平成23年度			
令和2年度事業費	予算額		15,936		決算額		14,839		(単位：千円)
事業の概要・目的	教育センター9階は、キッズ学びのフロアとして、プラネタリウム等の設備を活用し、ものづくり体験教室や理科・科学実験教室、天文教室等を開催することで、子どもたちの豊かな学びを保障し、創造性や探究心を育て、奈良で学んだことを誇らしげに語り、たくましく生きていこうとする子どもを育成する。平日には学校園を対象としたセンター学習を、休日には親子等を対象とした「キッズホリデークラブ」を実施する。								
目標指標	指標名		民間協力団体数の数（学校、営利企業を除く）						
	単位	団体	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値			9	10	11	8
			実績値			8	8	5	
令和2年度取組内容	「わくわくセンター学習」では、学習指導要領の改訂に合わせてプログラミング的思考を育成できる「ロボット教室」や、「キッズホリデークラブ」では、未就学児の参加が多いため親子で体験・制作できる実験や工作の講座を充実させていく。また、ボランティア団体、NPO法人、民間研究団体の協力も得ながら講座内容を充実させていく。市民に向けた広報活動として、ポスターやチラシ、HP、SNSなどを活用し、利用者の利便性を向上させる。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
自立化	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5					
	できた	少しで できた	どちらとも 言えない	あまりで きなかった	できな かった	相互補完	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	4
(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。								3
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
					相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	3
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	3
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	3
評価点							42	37

総合点	79
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A 評価	B 評価	C 評価	D 評価	E 評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	コロナ禍のため、4月・5月は事業中止し、6月以降、プラネタリウムや科学実験教室を実施した。感染状況に応じて、その都度、中止等を検討したため、協働先である団体等との調整に困難を極めたが、より一層、連携を深める契機になった。	コロナ禍にあって、この状況をどう乗り越えていくか運営会議において協議することができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	感染防止対策を講じて実施したため、参加者の減少は否めないが、外出自粛のため、室内の当教室への応募は減少しなかった。このニーズにより、双方共に事業内容の充実を図ろうという意欲に繋がった。	今後は、講座案内に団体名を公開してほしい。他団体と連携できる機会や教育センターと企画等を含めて話し合える場があれば、より嬉しい。

協働事業

No.	8	事業名	学校規模適正化検討協議会との協議							
部名	教育部			課名	教育政策課					
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化			展開方向	⑤	施設配置の適正化及び施設の長寿命化の検討 小学校・中学校の規模適正化を実施します。		
	基本施策	2-01	学校教育							
	施策	2-01-03	義務教育の充実							
相手方の名称		保護者・地域代表・学校関係者			協働事業の実施手法		事業協力			
実施の時期		通年			事業開始年度		平成20年度			
令和2年度事業費		予算額		2,533,583		決算額		916,985 (単位：千円)		
事業の概要・目的		奈良市学校規模適正化実施方針及び中学校区別実施計画等に基づき、対象地域において市立小・中学校の規模適正化の推進に向け協議し、地域性等を考慮した個性や特色ある学校づくりを目指す。								
目標指標		指標名		規模適正化を必要とする小・中学校						
		単位	校	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
				目標値	7	4	4	4	4	4
				実績値	7	4	4	4	4	
令和2年度取組内容		平城西中学校区においては、右京・神功両地域から成る新しい学校づくりのための「平城西中学校区新小中一貫教育学校開校準備委員会」での協議の結果、開校時期を令和4年4月とすることを決定した。校舎については令和元年度に児童を対象に実施したワークショップでの意見を基に設計を行い、令和2年9月末から校舎建設工事を開始している。若草中学校区においては、学校規模適正化の方針について内部で検討を行った。								
今後の方針		継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5 ← できた	4 ←	3 →	2 →	1 →	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	4
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	4
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		4				
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	3	4				
			(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。			4		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4				
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	3	3				
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	5				
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	3				
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5				
評価点							37	37

総合点	74
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	開校準備委員会内で校舎、バンビーホーム建設について協議することで保護者・地域から見た危険箇所の確認、対策をとることができた。 また、開校準備委員会が中心となり地域を対象にアンケートを実施することで地域の意見が反映された校名を提案することができた。	新小中学校の開校に向け「平城西中学校区小中一貫教育学校開校準備委員会」を立ち上げ、新しい学校づくりについて、行政と協議を重ねることができた。また、行政との協働により、地域に対し広く知らせることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	令和4年4月開校に向け、校章・校歌についても児童生徒、保護者の意見を取り入れながらより良いものとなるよう進めていただきたい。	行政との協働を通じて開校に向けた取組をさらに進めるとともに、明らかになった課題について協議を進めていく。

協働事業

No.	9	事業名	放課後子ども教室推進事業						
部名	教育部			課名	地域教育課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化			展開方向	②	地域の教育力の充実	
	基本施策	2-02	青少年の健全育成				各小学校区においても、学校・家庭・地域が連携・協働し、子どもたちの安全・安心な居場所を設け、地域ぐるみで子どもを育てる仕組みづくりを進めます。		
	施策	2-02-01	青少年の健全育成						
相手方の名称	小学校運営委員会			協働事業の実施手法		委託			
実施の時期	通年			事業開始年度		平成19年度			
令和2年度事業費	予算額		19,577		決算額		13,059		(単位：千円)
事業の概要・目的	子どもたちが地域社会の中で、心豊かに健やかに育まれる環境づくりを推進するため、放課後等に小学校の余裕教室等を活用し、地域の方々の参画を得て活動を進める。勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取組を、全小学校区で実施する。								
目標指標	指標名		放課後子ども教室の年間実施日数						
	単位	日／校	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	33	34	34	35	35	35
			実績値	31	31	31	27	14	
令和2年度取組内容	これまでに引き続き各小学校運営委員会に事業委託を行うとともに、各運営委員会・小学校・バンビーホームと連携・協働しながら子どもたちに多様な教育活動を提供するための支援をした。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で臨時休校や活動自粛となり、実施日数は14日と減少したが、地域で十分な対策をとりながら、できることをできる範囲で実施した。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	5
5 ← できた	4 ←	3 →	2 →	1 →	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	4
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
						(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		
					自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	4	
						(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
					相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
評価点							38	37

総合点	75
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	コーディネーターやボランティアなど地域人材の参画により、スポーツや学習・伝統文化等さまざまな分野の活動の機会を提供することができた。また、地域全体で子どもを見守り、育てるという意識が広がってきている。	・地域で子どもを育てる意識が高めることができた。 ・子どもたちに様々な体験、交流、学習活動の機会を提供することができ、居場所作りを進めることができた。 ・市の研修に参加したことでも得た出会いが活動に繋がった。 ・コロナ禍において、市のガイドラインや課の方針を迅速に伝えていただいたため、充実した事業展開ができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	地域人材不足が、多くの運営委員会で課題となっている。SNSや報道機関等を利用した広報活動の強化や、人材育成を目的とした研修を実施する等の工夫が必要である。また、事業運営の自律化をすすめるための工夫を共に考えていきたい。	・予算執行の柔軟化及び事務の簡素化。 ・次世代の人的資源の確保と育成。 ・学校施設での活動であるため、学校行事と捉えている児童、保護者が多い。地域の活動であることの啓発や広報の強化をお願いしたい。 ・他の運営委員会の取組を知りたい。 ・新型コロナウイルス感染症について、現場での判断が難しい面があった。令和2年度の状況を踏まえ、より明確な判断と通知をお願いしたい。

協働事業

No.	10	事業名	青少年野外体験施設の運営管理									
部名	教育部			課名	地域教育課							
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化				展開方向	③	青少年健全育成活動の推進			
	基本施策	2-02	青少年の健全育成					青少年が健やかに成長できる体験の場所や機会を提供します。				
	施策	2-02-01	青少年の健全育成									
相手方の名称		①奈良市黒髪山キャンプフィールド運営協議会 ②特定非営利活動法人 奈良地域の学び推進機構				協働事業の実施手法		指定管理				
実施の時期		通年				事業開始年度		①平成18年度（指定管理者制度導入年度） ②平成21年度（指定管理者制度導入年度）				
令和2年度事業費		予算額		27,687		決算額		27,095		（単位：千円）		
事業の概要・目的		自然環境の中での野外活動、レクリエーション等を通じて青少年の心身の健全な育成を図ることを目指す。										
目標指標	指標名		利用者数の増加									
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3			
			目標値	12,040	12,080	12,120	12,160	12,200	12,200			
令和2年度取組内容			実績値	12,279	12,497	11,888	10,881	4,495				
	黒髪山キャンプフィールドと青少年野外活動センターにおいて、キャンプ活動やレクリエーション活動等の学習の機会を提供した。両施設は4月10日から5月31日まで臨時休館しており、総利用者数は前年度に比べ減少した。開館後は新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、施設の周囲の自然環境を生かした魅力的な事業展開に努めた。											
今後の方針		継続	拡大、縮小、廃止の理由									



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 ← できた	4 ←	3 →	2 →	1 →	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
						(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		
					自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	3	
						(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	5
					相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	4
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	4
評価点							35	39

総合点	74
行政・協働相手の評価点を合計して算出 （※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	



総合評価					B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	指定管理者の経験やノウハウを施設の管理運営に活かすことで、快適で安全な施設の提供ができた。また、行政としてもホームページやしみんだより、SNSに掲載するなど広報面で協力が出来た。	情報発信について一歩前進したと思われる。また、学校行事が中止となった小学5年生を対象に行った冒険キャンプでは、市ホームページやしみんだよりにて広報し、多くの子どもたちへ野外体験の機会を提供することができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	利用者の固定化が見られるため、新規の利用者を増やす必要がある。利用者アンケートを基に要望に応えられるよう、指定管理者と協議・連携し、広報の手法を工夫し効果的なPRを行っていく。	施設の老朽化に伴う改修、集客力の強化について市の財政状況が厳しい中、管理運営をいかに行っていくか、奈良市内中心部にある自然豊かな数少ない場所を今後とも快適で安全な施設として、皆様にいかに末永く利用していただくか定期的に会議を持ち問題点の共有を図りたい。また、施設の老朽化により今後修繕が必要となる箇所が増加すると考えられるため、安全に利用していただくためにも、早急に対応していく必要がある。

協働事業

No.	11	事業名	公民館の運営管理						
部名	教育部			課名	地域教育課				
総合計画上の 位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化			展開方向	①	生涯学習活動の推進	
	基本施策	2-03	生涯学習				地域の課題解決に向けた学習活動を含め、市民の多様な学習に対応できる幅広い内容や人材の確保、機会の充実に努めます。		
	施策	2-03-01	生涯学習の推進						
相手方の名称	公益財団法人奈良市生涯学習財団			協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年			事業開始年度	平成18年度（指定管理者制度導入年度）				
令和2年度事業費	予算額		606,000	決算額	600,990	（単位：千円）			
事業の 概要・目的	いつでも、どこでも、だれでも学べる学習環境の醸成と整備を促進するとともに、学びの成果が活力ある地域づくりにつながる生涯学習活動を推進する。また、市民の生涯学習活動の拠点となる公民館を管理し、市民が健康かつ豊かな生活を送ることができる機会を提供する。								
目標指標	指標名		利用者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	610,000	620,000	630,000	640,000	650,000	350,000
			実績値	591,696	610,304	557,845	538,540	272,038	
令和2年度 取組内容	市民の多様なニーズに応える各種事業を企画・実施するとともに、市民の立場に立った施設運営を行った。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、市の方針を共有し市と協議を行いながら、臨時休館や貸館の制限、主催事業の一部中止を行った。6月以降は感染対策を取りながら貸館・主催事業を行い、市民への学習機会の提供に努めた。また、地域課題の解決に向けた取組を行うため、地域とのつながりを重視するとともに、市との情報共有に努めた。さらに若年層の学習活動を推進した。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	3	3
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	3	5
					自主性尊重	（行政）協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
	（協働相手）自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5					
できた	少しで できた	どちらとも 言えない	あまりで きなかった	できな かった	自立化	（行政）協働相手の自立化を進められましたか。	3	
						（協働相手）行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
					相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	5
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	5
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	4
評価点							31	38

総合点	69
行政・協働相手の評価点を合計して算出 （※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	



総合評価				B
A 評価	B 評価	C 評価	D 評価	E 評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	幅広い分野の団体と連携し、市民のニーズに沿った多様な事業を実施することができ、市の生涯学習推進につながった。	新型コロナウイルス感染症への対応などのため、市の所管課とこれまで以上にこまめに連絡調整や協議を行ったことにより、市の方針を共有するとともに互いの立場や役割を理解しながら公民館の事業展開及び施設運営に当たることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	協働相手が行政に依存せずに運営ができるよう、自立化に向けた方策を共に検討する必要がある。	市民のニーズに応える事業の計画・実施に向けて、さらに協働を進めていきたい。また、コロナ禍での公民館運営や、老朽化する施設・設備などについても情報共有を行いながら、安全で使いやすい施設運営に努めたい。

協働事業

No.	12	事業名	おはなし会							
部名	教育部			課名	中央図書館					
総合計画上の 位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化			展開方向	②	子どもの読書活動の推進		
	基本施策	2-03	生涯学習				子どもの読書活動に関わる環境の整備・充実に努めます。			
	施策	2-03-02	図書館の充実							
相手方の名称	ボランティア			協働事業の実施手法		共催				
実施の時期	通年			事業開始年度		平成20年度				
令和2年度事業費	予算額		537		決算額		150		(単位：千円)	
事業の 概要・目的	図書館において「おはなし会」を開催し、絵本の読み聞かせ・おはなし・パネルシアター・人形劇などを通して、物語などのすばらしさを伝え、子どもの想像力と豊かな感性を育むとともに、読書への興味へと導いて、子どもの健全育成を図る。									
目標指標	指標名		参加人数							
	単位	参加人数	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
			目標値	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	
			実績値	1,590	1,446	1,053	1,476	781	557	
令和2年度 取組内容	新型コロナウイルス感染防止に努めながら「おはなし会」を開催し、絵本の読み聞かせ・おはなし・パネルシアター・人形劇などを開催する。									
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由								



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	5
5 ← できた	4 ←	3 →	2 →	1 →	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	5
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5					
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	3					
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。			5			
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	5				
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	5				
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	5				
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	5				
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	4				
評価点							33	44

総合点	77
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	絵本の読み聞かせだけではなく、ストーリーテリング、パネルシアターなど様々なイベント内容で開催することができた。	図書館がポスターや黒板アートで、おはなし会を広報してくれたのでコロナ禍ではあったが、楽しみに参加する親子がいた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	図書館が本来行うべき事業であるが、協同することによって、より多く開催できている。より多くの利用者のニーズに応えるためには協働できる相手を増やしていく必要がある。	コロナ禍の下、通常であれば対面で行うおはなし会の反省などをオンラインで行うことが出来た。今後もより良いおはなし会ができる様、図書館との話し合いの機会を設けてほしい。

協働事業

No.	13	事業名	市民考古サポーター活動事業							
部名	教育部			課名	文化財課埋蔵文化財調査センター					
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化			展開方向	①	文化財の保護・啓発		
	基本施策	2-04	文化遺産の保護と継承				文化財保護に関わるボランティア・市民活動などとの連携を促進する。			
	施策	2-04-01	文化遺産の保存と活用							
相手方の名称				寧楽考古楽倶楽部		協働事業の実施手法		事業協力		
実施の時期				通年		事業開始年度		平成21年度		
令和2年度事業費		予算額		72		決算額		39		(単位：千円)
事業の概要・目的		寧楽考古楽倶楽部は、平成20年度「市民考古サポーター養成講座」の修了者が組織した団体で、発掘調査・遺物整理・展示公開・講演・説明会等、埋蔵文化財調査センターが行う考古学的調査研究、保存活用事業に参加支援し、考古学を自由な立場で楽しみながら学び、その活動を通じ文化財保護へ寄与してもらう。								
目標指標	指標名		市民考古サポーターの人員維持							
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
			目標値	85	85	100	102	104	100	
		実績値		93	99	106	108	103		
令和2年度取組内容		市の事業計画に対応する形で、2ヶ月毎に活動計画を策定し、遺物整理・展示公開・発掘調査体験学習等を実行した。その後各事業ごとに協働内容を確認し、意見・要望を整理したうえで、倶楽部の役員会において担当職員と役員で今後の方向性等を協議した。しかし新型コロナウイルス感染拡大防止の為、市民考古サポーター養成のための講座が中止となり、新規加入者が無く、人員は減少した。								
今後の方針		継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	4
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	3	
					自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
					相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	4
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	4
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	4
評価点							40	36

総合点	76
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価					A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	新型コロナウイルス感染防止対策を徹底したうえで、多彩な埋蔵文化財の活用事業を、少ない経費で有効に実施できた。	今年度はコロナ禍でサポーター活動は大きく制限されたが、センター指導の下、発掘現場現地公開（ウナベ古墳・富雄丸山古墳・柏木公園内）は無事終了することが出来た。自主活動している2つの研究会も、中間発表できる段階まで成果を積み上げることが出来たのは、センターのご指導やご協力あってのものです。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	さらなる協働の機会を図る一方、新型コロナウイルス感染防止など、健康にも十分留意して協働していきたい。	令和2年度はコロナ禍で市民考古学講座は中止となり、新メンバーを迎えることが出来なかった。市民考古サポーター活動においても、相次ぐ緊急事態宣言の発令もあり、活動は大きく制限され、予定していた活動が出来ずに終わった。そんな中、先輩サポーターによる新人サポーターへのOJTについては定着してきており、今後もこの手法を継続し、考古サポーターの技量向上に取り組む方針です。

協働事業

No.	14	事業名	文化財講座							
部名	教育部		課名	文化財課						
総合計画上の 位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化			展開方向	①	文化財の保護・啓発		
	基本施策	2-04	文化遺産の保護と継承				市民が奈良の歴史文化を知る機会となる文化財活用普及啓発事業の充実を図ります。			
	施策	2-04-01	文化遺産の保存と活用							
相手方の名称	文化財関連団体、公益財団法人奈良市生涯学習財団（都跡公民館）等				協働事業の実施手法		共催			
実施の時期	年2回				事業開始年度		共催での実施は平成27年度から			
令和2年度事業費	予算額		408		決算額		192	(単位：千円)		
事業の 概要・目的	市民に広く奈良の文化財を周知し、理解と関心を深めてもらい、保護や活用に積極的に関わる契機として、体験学習・見学等を組み合わせた講座を開催する。									
目標指標	指標名		協働での実施回数							
	単位	回	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
			目標値	3	2	2	2	2	1	
			実績値	3	2	3	1	1		
令和2年度 取組内容	従来実施している当該事業の一部を協働で行った。都跡公民館との協働により、公民館に隣接する旧田中家住宅（市指定文化財）を活用し、かまどでの炊飯等の昔の暮らし体験を含む講座を実施した。 なお、赤膚山元窯保存会との協働による、平成29年度に修理が完了した大型登り窯（登録有形文化財）を活用した講座の開催も検討したが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、開催を見送った。									
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由								



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
できた 少しで きた どちらとも 言えない あまりで きなかつ た					自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	3	
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
					相互補充	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	5
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
					評価点		41	43

総合点	84
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	



総合評価					A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	コロナ禍のため開催中止もやむを得ないと考えていたが、生涯学習機会の提供という社会的責任を果たしたいという公民館側の思いに励まされ、開催することができた。例年より小規模の講座となったが、公民館職員の暖かい心遣いにより、和やかでアットホームな雰囲気の中で講座を実施することができた。	文化財についての基本的な考えや地域文化の継承や保護について、専門部署と協働したことで、市民の方々にその重要性や意義を理解し深めてもらうなど、実施目的を果たすことができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	隣接するメリットと互いの強みを生かし、今後も文化財講座を続けていきたい。公民館で行う講座や催し等にも当該の施設をぜひ活用してもらいたい。両施設間はフェンスで隔てられているが、協働をさらに進めるため、その改善についても検討していきたい。	新型コロナウイルス感染予防の為、内容を精査し規模を縮小したが、今後の教育資源を活用した新たな企画の糸口を共有することができた。今後も連絡や打合せを密にし、共に文化財保護への理解につなげていきたい。

協働事業

No.	15	事業名	史料保存館展示関連見学会									
部名	教育部			課名	文化財課							
総合計画上の 位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化			展開方向	①	文化財の保護と啓発				
	基本施策	2-04	文化遺産の保護と継承				市民が奈良の歴史文化を知る機会となる文化財活用普及事業の充実を図ります。					
	施策	2-04-01	文化遺産の保存と活用									
相手方の名称	NPO法人なら・観光ボランティアガイドの会「朱雀」				協働事業の実施手法		共催					
実施の時期	年4回				事業開始年度		平成28年度					
令和2年度事業費	予算額		2,424		決算額		2,381		(単位：千円)			
事業の 概要・目的	史料保存館の展示テーマに合わせた市内の現地見学と、史料保存館の展示見学を行い、奈良の歴史文化に対する知識を深め、文化財保護の推進を図る。											
目標指標	指標名		実施回数									
	単位	回	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3			
			目標値	1	4	4	4	4	4			
			実績値	1	4	4	4	1				
令和2年度 取組内容	ホームページやしみんだより、ツイッターに解説付きガイドツアー募集の記事を掲載し、NPO法人なら・観光ボランティアガイドの会「朱雀」の案内で、史料保存館の企画展示及び特別陳列「ならまち歳時記展にゆかりの地を歩く見学会を行った。あわせて同館職員の解説により史料保存館の展示を見学してもらった。また、参加者アンケートを基に今後の事業内容を検討する。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、当初計画回数のうち3回を中止にした。											
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由										



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5 ← できた	4 ← 少しで きた	3 → どちら とも言 えない	2 → あまり できな かった	1 → できな かった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5					
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	4					
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。			4			
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5				
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5				
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4				
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4				
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5				
評価点							42	42

総合点	84
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価					A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	ガイド付きツアーを通じて、史料保存館館員による展示解説に加えて、ボランティアガイドによるわかりやすい解説で現地見学することによって、参加者に奈良の歴史の面白さを知ってもらうことができ、奈良の歴史情報を発信することができた。	今年度はコロナの影響により4企画中1企画（江戸時代の奈良町）だけの実施となりました。史料保存館で奈良晒について原料がはるばる東北から運ばれ奈良町で糸・布に加工され他地方で真似の出来ない高級な晒布になる過程を教えて頂きお客様は驚嘆されていました。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	新型コロナウイルス感染症流行により、当初計画回数のうち3回を中止にせざるを得なかったことから、今後は開催可能な時期に日程を設定できるよう調整を進めていきたい。また、実施できた回については、朱雀の会が募集段階から当日実施まで感染予防対策を心掛けた対応を行ったことにより、無事遂行することができた。今後も同様の対応をお願いしたい。	コロナ禍により1ガイド5人のお客様設定で6人ガイド、31人で締め切りましたが当日のキャンセルもあり27人となりました。次回からも同じ条件なら当日キャンセルを見込み5人ほど余分に募集できたら採算上有り難いです。

協働事業

No.	16	事業名	上深川歴史民俗資料館（指定管理）						
部名	教育部			課名	文化財課				
総合計画上の 位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化			展開方向	③	文化財保存・展示施設の整備	
	基本施策	2-04	文化遺産の保護と継承				史料保存館など文化財保存公開施設の 充実を図ります。		
	施策	2-04-01	文化遺産の保存と活用						
相手方の名称	奈良市上深川町自治会				協働事業の実施手法	指定管理			
実施の時期	通年				事業開始年度	昭和53年度			
令和2年度事業費	予算額		210		決算額	210		（単位：千円）	
事業の 概要・目的	地域の文化財保存公開施設として適切に管理を行い、特に当該地域の特色ある文化財である重要 無形民俗文化財「題目立」の保存公開に寄与する運営を行う。								
目標指標	指標名		重要無形民俗文化財「題目立」の保存公開、施設管理に要する日数						
	単位	日	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	29	28	28	28	28	28
			実績値	49	50	50	55	50	
令和2年度 取組内容	「題目立」の合同練習、現地公開のために開館する。また見学希望者への公開のために随時開館 する。 そのほか施設維持管理、収蔵資料の保存等のために毎月定期的に点検等を行う。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
できた	少しで できた	どちらとも 言えない	あまりで できなかった	できな かった	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	5	
						目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5
					相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
評価点							43	43

総合点	86
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	事業の目的である、地域の特色ある文化財の保存伝承に資するうえで、施設の所在する地域と当該文化財そのものを熟知する団体が、施設を管理し運営したことで、当該地域の無形民俗文化財の保存、伝承に効果を発揮することができた。	地域に伝えられた大切な伝統行事を公開し、関連する資料や装束などを保管して、後世に引き継いでいくための活動の拠点施設を、市と協力して管理運営することができたことで、安定的に伝承活動をすることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	コロナ禍での伝承活動について共にあり方を模索する必要があるが、施設公開、見学者対応についても、現地の管理者として、見学機会の拡充や充実に留意しつつ、感染防止の徹底と継承の意識づけも進める。	来館者に対する応対や見学資料の作成、その他施設の活用に加えて、コロナ対策についても、市と相談しながら進めていきたい。

協働事業

No.	17	事業名	ならまちわらべうたフェスタ									
部名	観光経済部				課名	奈良町にぎわい課						
総合計画上の 位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化				展開方向	③	伝統文化の普及と継承			
	基本施策	2-05	文化振興					伝統文化の普及のために、市民が伝統文化に触れる機会を提供する等の支援を行います。				
	施策	2-05-01	文化の振興									
相手方の名称	文化団体・NP0・財団等					協働事業の実施手法		実行委員会・協議会				
実施の時期	10月					事業開始年度		平成5年度				
令和2年度事業費	予算額		1,732			決算額		1,166		(単位：千円)		
事業の 概要・目的	わらべうたは子どもたちによって遊びの中で伝えられ、それぞれの時代の子どもの様子や人々の文化が表現されている。このわらべうたを貴重な無形文化遺産と位置づけ広く継承することと、「ならまち」の地域活性化と文化振興を目的にわらべうたをベースとしたおまつりを開催する。											
目標指標	指標名		ならまちわらべうたフェスタ協力団体数の増加									
	単位	団体	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3			
			目標値	31	32	40	45	50	35			
			実績値	35	35	31	33	30				
令和2年度 取組内容	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からオンライン開催とし、わらべうたをベースとした動画を配信した。											
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由										



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	3	5
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	5
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
できた	少しで できた	どちらとも 言えない	あまりで きなかった	できな かった	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	5	
						目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	3
					相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	3	3
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	3
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	3
評価点							34	35

総合点	69
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	コロナ禍の困難な状況の中、わらべうたフェスタに携わる各団体がそれぞれの得意な分野を活かしたWebコンテンツを提供し、地域の活性化に寄与した。	特になし
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	新型コロナウイルス感染拡大により、オンラインという新たな形での開催を模索し、実施したことは大きな経験であった。今後はこの経験を活かし参加団体の増加につながる様なさらなる展開を期待したい。	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、例年と違う内容での開催となったが相互理解のもと実施することができた。

協働事業

No.	18	事業名	奈良市西部会館市民ホール（学園前ホール）の運営						
部名	市民部		課名	文化振興課					
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化			展開方向	①	文化の発信と交流	
	基本施策	2-05	文化振興				市民の文化活動・芸術活動の場の提供や、市民が文化に接する機会の拡充に努めるとともに、市民との交流・連携を図り、文化政策を推進します。		
	施策	2-05-01	文化の振興						
相手方の名称	日本環境マネジメント株式会社			協働事業の実施手法		指定管理			
実施の時期	通年			事業開始年度		平成20年度（指定管理者制度導入年度）			
令和2年度事業費	予算額		40,000		決算額		39,584		（単位：千円）
事業の概要・目的	西部会館市民ホール（学園前ホール）の設置により、市民の連帯感の育成と文化の向上を図るとともに、ふれあい豊かな地域社会づくりをめざす。 指定期間：平成30年4月1日～令和5年3月31日 開館時間：午前9時から午後5時まで（ただし施設の利用は午後9時半まで） 休館日：月曜日、休日の翌日、12月28日から1月4日 西部会館市民ホールの業務内容：①施設の貸し出し、②文化振興を図るための自主事業（コンサート、講演、文化講座など）								
目標指標	指標名		来館者数の増加						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	40,000	38,000	38,130	38,481	38,862	39,130
			実績値	37,381	35,848	40,967	39,130	14,280	
令和2年度取組内容	指定管理者と情報の共有、報告や協議等に努め、施設利用者の満足度の高い施設運営と企画・自主事業（18事業）を実施した。尚、新型コロナウイルスの影響により、ホールの臨時休館や利用（人数）制限のため利用者数の減少となった。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
できた 少しで きた どちらとも 言えない あまりで きなかつ た					自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	5
					相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	5
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	3
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
					評価点		40	41

総合点	81
行政・協働相手の評価点を合計して算出 （※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	



総合評価					A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	貸館利用者や企画・自主事業の来場者など多くの施設利用者からのご意見、要望等の把握に努め、それらを踏まえ効率的な施設の管理運営、満足度の高い企画・自主事業を開催することが出来た。	学園前アートフェスタをきっかけに多様な団体との関係性が生まれ、その中から連携事業を進める等、良好なネットワークが構築できた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	安心、安全で親しみある施設として、様々な場面においての適正かつ迅速な対応が求められるため、周辺地域等との強力な連携体制と環境づくりが必要となる。	協働連携事業に関し、コロナによる影響により中止する結果となったが、前向きに実現させていくことで相互の共通理解を得ている。お互いの状況を共有しつつ、丁寧な調整と情報交換がこの不安定な状況において重要だと考える。

協働事業

No.	19	事業名	北部会館市民文化ホールの運営						
部名	市民部		課名	文化振興課					
総合計画上の 位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向	①	文化の発信と交流		
	基本施策	2-05	文化振興			市民の文化活動・芸術活動の場の提供や、市民が文化に接する機会の拡充に努めるとともに、市民との交流・連携を図り、文化政策を推進します。			
	施策	2-05-01	文化の振興						
相手方の名称	一般財団法人奈良市総合財団			協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年			事業開始年度	平成20年度（指定管理者制度導入年度）				
令和2年度事業費	予算額		32,200		決算額	32,147		（単位：千円）	
事業の 概要・目的	北部会館市民文化ホールの設置により、市民の自主的な文化活動の促進、教養の向上及び健康の保持を図るとともに、市民の福祉の増進に資する。 指定期間：平成30年4月1日～令和5年3月31日 開館時間：午前9時から午後5時まで（ただし施設の利用は午後9時半まで） 休館日：月曜日、休日の翌日、12月28日から1月4日 北部会館市民文化ホールの業務内容：①施設の貸し出し、②文化振興を図るための自主事業（コンサート、講演など）								
目標指標	指標名		来館者数の増加						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	130,000	134,000	128,600	119,491	120,682	74,819
			実績値	133,895	128,036	93,080	74,819	33,828	
令和2年度 取組内容	指定管理者と情報の共有、報告や協議等に努め、施設の利用促進を図るとともに地域周辺住民が日常的に参加できる講座等22事業を実施した。尚、新型コロナウイルスの影響により、自主事業の中止等のため利用者数の減少となった。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和２年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	5
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
←	←	→	→		自主性尊重	（行政） 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 （協働相手） 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	4	
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	（行政） 協働相手の自立化を進められましたか。 （協働相手） 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
					相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	5
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
					評価点			

総合点	76
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価					A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	貸館利用者や自主事業等の来場者など多くの施設利用者からのご意見、要望等の把握に努め、それらを踏まえ効率的な施設の管理運営、地域に根付いた様々な事業を実施することが出来た。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、奈良市の対応方針が迅速に示されたことなどから、安全安心の施設運営につながった。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	施設利用者等のニーズと変化を的確に把握し、地域の特性、施設の特性を活かした施設運営を図るため、周辺地域との強力な連携体制と環境づくりが必要となる。	施設・設備の老朽化に伴い、突然の運行停止に陥らないように予防保全に努める必要が高まっています。

協働事業

No.	20	事業名	入江泰吉旧居の運営						
部名	市民部			課名	文化振興課				
総合計画上の 位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化			展開方向	①	文化の発信と交流	
	基本施策	2-05	文化振興				市民の文化活動・芸術活動の場の提供や、市民が文化に接する機会の拡充に努めるとともに、市民との交流・連携を図り、文化政策を推進します。		
	施策	2-05-01	文化の振興						
相手方の名称	一般財団法人奈良市総合財団				協働事業の実施手法	指定管理			
実施の時期	通年				事業開始年度	平成26年度（開館年度）			
令和2年度事業費	予算額		10,566		決算額	10,214		（単位：千円）	
事業の 概要・目的	入江泰吉旧居の設置により、奈良を愛した写真家入江泰吉の旧居を保存活用し、その業績の顕彰を図り、もって奈良を愛する心を育むとともに、文化の向上に資する。 指定期間：平成31年4月1日～令和6年3月31日 開館時間：午前9時半から午後5時まで（ただし入館は午後4時半まで） 休館日：月曜日、休日の翌日 入江泰吉旧居の業務内容：①旧居の一般公開、②入江泰吉及び写真に関する事業の開催								
目標指標	指標名		来館者数の増加						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値			6,100	6,868	6,930	6,409
			実績値	7,033	5,923	7,387	6,409	3,101	
令和2年度 取組内容	指定管理者と情報の共有、報告や協議等に努め、効果的な施設運営と写真家入江泰吉を紹介するとともに奈良の魅力を伝える講座など9事業を実施した。尚、新型コロナウイルスの影響により、臨時休館や事業の縮小や中止のため利用者数の減少となった。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	4
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	4
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	4	
できた 少しで きた どちらとも 言えない あまりで きなかつ た					自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
					相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	3
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	3
					評価点		37	34

総合点	71
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	自主事業や来館者からのご意見、要望等の把握に努め、また来館者への親切丁寧な旧居案内などを通じ、奈良の歴史、文化・芸術への関心を高めることに繋がる施設運営を行うことが出来た。	公立施設であるという事で、入館者に安心感や信頼感を持たれることは強みである。企画事業については入江泰吉記念奈良市写真美術館のノウハウを土台とし、NPO法人文化創造アルカの奈良の情報をもとに、写真愛好家、奈良を好きな人たちと幅広く事業展開できていると思われる。しかし昨今のコロナ禍では、休館、事業の中止、縮小となった。その中でも確かな情報共有、それに関わる対応と迅速に作業をあたることができたと思われる。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	情報の共有化と十分な協議を重ねるとともに、積極的に周辺地域との連携を図り、誘客増加に繋がる施策を講じる必要がある。	協働の強みを活かし講座等事業展開しているが、昨今のコロナ禍では大きく事業が縮小した。観光に関わる施設全体の話だと思われるが、新型コロナウイルス感染拡大が収束した後、いかにして昨年度の水準以上に戻すのか、行政とまたは他の団体と協力しながら進めるのか、相談、調整、協力して事業を進める必要があると思われる。

協働事業

No.	21	事業名	奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良」									
部名	市民部			課名	文化振興課							
総合計画上の 位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化			展開方向	④	「東アジア文化都市」事業主旨に基づく施策の実践				
	基本施策	2-05	文化振興				文化庁との共催事業である「東アジア文化都市」事業をはじめ、文化でまちを豊かにする施策を推進します。					
	施策	2-05-01	文化の振興									
相手方の名称	奈良市アートプロジェクト実行委員会			協働事業の実施手法			実行委員会・協議会					
実施の時期	通年			事業開始年度			平成29年度					
令和2年度事業費	予算額		13,134		決算額		11,541		(単位：千円)			
事業の 概要・目的	「東アジア文化都市2016奈良市」の成果を引き継ぐため、平成28年12月に「奈良市アートプロジェクト実行委員会」を立ち上げ、社会課題をアートによって掘り下げ、新たな価値につなげていくための取り組みを進める。											
目標指標	指標名		事業満足度（大変良いと良いの合計）									
	単位	%	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3			
			目標値		80	80	80	80	80			
			実績値		88	87	93	97				
令和2年度 取組内容	奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良」事業を進めるにあたって、実行委員会と協議しながら事業を実施する。											
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由										



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	4
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	←	←	→	→	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
					相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	3	3
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	3
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
					評価点			

総合点	67
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	本事業の実行委員会は事務局を市におくものの、実行委員会やプログラムディレクターの意見をもとに運営している。そのため、現在のアートシーンを反映した企画が実施されており、著名な作家・芸術家の参加なども実現している。	市が共催となるため、しみんだよりや施設でのチラシ配布など広報面での効果が高い。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	企画によっては専門性が高く市民に伝わりにくい内容となることがある。企画意図を平易に伝えるよう、実行委員会において工夫が必要である。	事業分野が多岐にわたっており、市民に伝わりにくい部分があるように感じられる。対象を明確にし、戦略的に企画検討を行うべきである。

協働事業

No.	22	事業名	奈良市都祁交流センター							
部名	市民部			課名	都祁行政センター地域振興課					
総合計画上の 位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化			展開方向	①	文化の発信と交流		
	基本施策	2-05	文化振興				市民の文化活動・芸術活動の場の提供や、市民が文化に接する機会の拡充に努めるとともに、市民との交流・連携を図り、文化政策を推進します。			
	施策	2-05-01	文化の振興							
相手方の名称	一般財団 奈良市総合財団				協働事業の実施手法		指定管理			
実施の時期	通年				事業開始年度		平成18年度（指定管理者制度導入年度）			
令和2年度事業費	予算額		30,300		決算額		30,300		（単位：千円）	
事業の 概要・目的	市民の文化振興と福祉の増進を図るとともに、地域間・世代間交流を促進するための文化活動の拠点となる施設の管理を行う。									
目標指標	指標名		利用者数の増							
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
			目標値	16,000	18,000	18,100	18,200	18,300	18,300	
			実績値	20,456	19,484	19,521	16,437	5,058		
令和2年度 取組内容	新型コロナウイルスの影響で休館や事業が中止になったが、指定管理者と情報共有や十分な協議を行いながら、安全・安心で市民に良質なサービスを提供できるよう支援を行う。									
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由								



令和2年度 事業評価		協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価			
		対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5			
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
					自主性尊重	（行政） 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 （協働相手） 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	4	
できた	少しで できた	どちらとも 言えない	あまりで きなかった	できな かった	自立化	（行政） 協働相手の自立化を進められましたか。 （協働相手） 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	3	
						目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4
					相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	—	—
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	1
評価点							33	32

総合点	65
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	都祁地域の豊かな自然、歴史、文化という魅力を活かした事業展開は、新型コロナウイルスの影響で事業ができなかったが、世代間交流の拠点として、気軽に来館できる環境づくりを行った。	施設管理運営上の課題等を随時報告することによって、双方が常に共通認識でそのプロセスについて共有することができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	多様化する住民ニーズや満足度に対応するとともに、今後も地域性を活かした安全・安心な施設運営と、持続可能な自主事業の強化に努めていただきたい。	長期化が予想されるコロナ感染対策について更なる予算支援と情報共有の迅速な対応を求めると共に、外郭団体としての役割を明確にして事業を進めていきたいと考える。

協働事業

No.	23	事業名	奈良市都祁生涯スポーツセンターコート等4施設の運営						
部名	市民部			課名	都祁行政センター地域振興課				
総合計画上の 位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化			展開方向			
	基本施策	2-06	スポーツ振興						
	施策	2-06-01	スポーツ振興						
相手方の名称	一般財団法人 奈良市総合財団				協働事業の実施手法	指定管理			
実施の時期	通年				事業開始年度	平成22年度（8月供用開始）			
令和2年度事業費	予算額		9,986		決算額	9,986		（単位：千円）	
事業の 概要・目的	健康で生きがいを持って暮らせるよう、生涯スポーツ宣言地域としてスポーツ・レクリエーションを通じて健康を維持・推進できるよう安全・安心なスポーツ施設の管理運営を行う。								
目標指標	指標名		利用者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	19,500	20,000	20,500	21,000	21,500	21,500
			実績値	15,711	17,731	17,268	14,830	10,583	
令和2年度 取組内容	新型コロナウイルスの影響で事業が中止になったが、指定管理者と情報共有や十分な協議を行いながら、安全・安心で市民に良質なサービスを提供できるよう支援を行う。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
					自主性尊重	（行政） 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 （協働相手） 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	4	
できた	少しで できた	どちらとも 言えない	あまりで きなかった	できな かった	自立化	（行政） 協働相手の自立化を進められましたか。 （協働相手） 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	3	
						目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4
					相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	—	—
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	1
					評価点	33	32	

総合点	65
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	都祁地域内の企業やスポーツクラブ等との連携による利用促進や、地域性を活かした施設管理運営を行うことができた。	施設管理運営上の課題等を随時報告することによって、双方が常に共通認識でそのプロセスについて共有することができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	地域のスポーツ拠点の一つとして、地域性を活かした安全・安心な施設運営と、自主事業の強化に努めていただきたい。	長期化が予想されるコロナ感染対策について更なる予算支援と情報共有の迅速な対応を求めると共に、外郭団体としての役割を明確にして事業を進めていきたいと考える。

協働事業

No.	24	事業名	奈良市都祁体育館の運営						
部名	市民部			課名	都祁行政センター地域振興課				
総合計画上の 位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化			展開方向	②	生涯スポーツの推進	
	基本施策	2-06	スポーツ振興						
	施策	2-06-01	スポーツの振興						
相手方の名称	一般財団法人 奈良市総合財団				協働事業の実施手法	指定管理			
実施の時期	通年				事業開始年度	平成18年度（指定管理者制度導入年）			
令和2年度事業費	予算額		6,350		決算額	6,350		（単位：千円）	
事業の 概要・目的	健康で生きがいを持って暮らせるよう、生涯スポーツ宣言地域としてスポーツ・レクリエーションを通じて健康を維持・推進できるよう安全・安心なスポーツ施設の管理運営を行う。								
目標指標	指標名		利用者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	6,300	6,400	6,500	6,600	6,700	6,700
			実績値	9,072	10,059	8,542	8,771	6,673	
令和2年度 取組内容	新型コロナウイルスの影響で事業が中止になったが、指定管理者と情報共有や十分な協議を行いながら、安全・安心で市民に良質なサービスを提供できるよう支援を行う。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	4	
できた	少し できた	どちらとも 言えない	あまり できなかった	でき なかつた	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	3	
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
					相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	—	—
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	1
評価点							33	32

総合点	65
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	都祁地域内の企業やスポーツクラブ等との連携による利用促進や、地域性を活かした施設管理運営を行うことができた。	施設管理運営上の課題等を随時報告することによって、双方が常に共通認識でそのプロセスについて共有することができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	地域のスポーツ拠点の一つとして、地域性を活かした安全・安心な施設運営と、自主事業の強化に努めていただきたい。	長期化が予想されるコロナ感染対策について更なる予算支援と情報共有の迅速な対応を求めると共に、外郭団体としての役割を明確にして事業を進めていきたいと考える。

協働事業

No.	25	事業名	地域福祉活動の支援事業						
部名	福祉部			課名	福祉政策課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉			展開方向	②	地域福祉活動の推進	
	基本施策	3-01	地域福祉				地域ごとに作成する地域福祉活動計画の策定を奈良市社会福祉協議会と協働して推進します。		
	施策	3-01-01	地域福祉の推進						
相手方の名称	地区社会福祉協議会				協働事業の実施手法	事業協力			
実施の時期	通年				事業開始年度	平成16年度			
令和2年度事業費	予算額		0		決算額	0		(単位：千円)	
事業の概要・目的	地域住民の立場から地域特性にあった「地域福祉活動計画」を作成し、住民の福祉活動への理解や参加を促し、住みよい生活環境づくりを実現する。現在46の地区社会福祉協議会があり、住民自治に根ざした地域住民と行政の対等なパートナーシップのもと、連携・協働による福祉のまちづくりをめざす。								
目標指標	指標名		地域福祉活動計画の策定地区数						
	単位	地区	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	20	26	32	38	46	46
			実績値	20	25	31	34	40	
令和2年度取組内容	地区社協等の地域福祉に関する活動を行う方々が、共通の目標を持ち計画的に福祉のまちづくりに取組んでいくことができるよう、地域福祉活動計画を策定する。未策定地区については、策定実施に向け積極的に働きかけをする。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 ← できた	4 ← 少しできた	3 → どちらとも言えない	2 → あまりできなかった	1 → できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	5
	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。							
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	5	5				
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5				
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4				
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4				
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4				
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4				
評価点							40	40

総合点	80
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	市社協を通じて、市社協の地区担当者と地区社協等活動者が地域における福祉課題の解決に向け議論・協議を行い、一部の地域で地域福祉活動計画を作成することができた。	地域福祉活動計画を推進する上で、行政・市社協・地域住民（地区社協）が協働するために、市社協と当該課との協議や、地区社協会長会を通じた行政との協議の場で地域課題や行政施策等の情報共有・協議を図ることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	未策定の地域については、今後も地域の福祉課題解決に向けた議論・協議が必要と考える。	複雑・多様な今日的な地域課題を解決していくためには行政内の縦割りをなくし、組織横断的な協議の場の設定や制度の狭間の福祉課題に対応するためにも課題解決に向けた組織横断的な庁内の連携体制が必要である。

協働事業

No.	26	事業名	奈良市月ヶ瀬福祉センターの運営									
部名	福祉部				課名	長寿福祉課						
総合計画上の位置付け	章	第3章		保健福祉			展開方向	③	地域福祉推進体制の充実			
	基本施策	3-01		地域福祉				地域福祉推進に係る各種団体との連携を充実します。				
	施策	3-01-01		地域福祉の推進								
相手方の名称	(福) 奈良市社会福祉協議会					協働事業の実施手法		指定管理				
実施の時期	通年					事業開始年度		平成22年度（指定管理者制度導入年度）				
令和2年度事業費	予算額		29,000			決算額		28,901		(単位：千円)		
事業の概要・目的	市民の福祉活動の振興及び健康の増進を図り、市民の福祉の向上に資する。											
目標指標	指標名		利用者数の増									
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3			
			目標値	25,500	25,600	25,700	25,800	25,800	25,800			
			実績値	25,248	24,254	22,206	22,194	19,286				
令和2年度取組内容	月ヶ瀬福祉センターだよりを毎月1回発行し、センターを適宜利用してもらうことが出来た。コロナウイルス感染予防対策のため、一時休館や利用制限等を設けなければならなかったが、感染予防対策を行いながら地域の福祉活動の場の提供、福祉相談窓口を設置する等、市民のニーズにこたえた。											
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由										



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5 ← できた	4 ←	3 →	2 →	1 →	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
						(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		
					自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	4	
						(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
					相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	3
評価点							36	36

総合点	72
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	行政と奈良市社会福祉協議会および地域組織とが協働することで、良好な地域環境を維持することが出来るようになった。地域社会との結びつきが緊密となることでより多くの地域の課題を発見でき、解決に繋げていけることが出来る。	行政と協働することで、単独では出来ないことへの課題解決ができ、良好な地域環境を維持することが出来る。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	今後も、行政と奈良市社会福祉協議会および地域組織と情報の共有を行い、互いの組織で出来ることを確認し、補い合う等の役割分担を行い、地域の福祉課題を解決できるよう取り組んでいく必要がある。	地域福祉をより推進するために、各関係機関と地域組織のネットワーク作りを行っていく必要がある。行政には各関係機関と協働するための協議の場作りに対する支援等を行ってもらい、より関係が密になるよう取り計らってもらいたい。

協働事業

No.	27	事業名	奈良市都祁福祉センターの運営									
部名	福祉部			課名	長寿福祉課							
総合計画上の 位置付け	章	第3章	保健福祉			展開方向	③	地域福祉推進体制の充実				
	基本施策	3-01	地域福祉				地域福祉推進に係る各種団体との連携 を充実します。					
	施策	3-01-01	地域福祉の推進									
相手方の名称	(福) 奈良市社会福祉協議会				協働事業の実施手法		指定管理					
実施の時期	通年				事業開始年度		平成22年度（指定管理者制度導入年度）					
令和2年度事業費	予算額		32,500		決算額		32,483		(単位：千円)			
事業の 概要・目的	市民の福祉活動の振興及び健康の増進を図り、市民の福祉の向上に資する。											
目標指標	指標名		利用者数の増									
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3			
			目標値	30,100	30,200	30,300	30,400	30,500	30,500			
			実績値	23,412	25,950	25,844	24,270	12,070				
令和2年度 取組内容	地域の福祉活動の拠点として地域福祉の推進に努めた。また、新型コロナウイルス感染防止対策に配慮した施設運営を行い、センターの利用促進に努めた。 都祁福祉センターだより等による福祉センターの周知及び利用促進、世代間交流の場の提供を実施した。											
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由										



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
できた	少しで できた	どちらとも 言えない	あまりで きなかった	できな かった	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	
						目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4
					相互補充	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	3
評価点							36	36

総合点	72
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	行政と奈良市社会福祉協議会および地域組織とが協働することで、良好な地域環境を維持することが出来るようになった。地域社会との結びつきも緊密となることで多くの地域の課題を発見でき、解決に繋げていけることが出来ると感じた。	市民の福祉活動の振興及び健康の増進を図り、もって市民の福祉の向上に資するため、指定管理で、奈良市社会福祉協議会において福祉センターの施設運営を行った。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	行政と奈良市社会福祉協議会および地域組織と情報の共有を行い、互いの組織で出来ることを確認し補う等の役割分担を行い、今後も地域の福祉課題を解決できるよう取り組んでいく必要がある。	地域福祉をより推進するために、各関係機関と地域組織のネットワーク作りを行っていく必要がある。行政には各関係機関と協働するための協議の場作りに対する支援等を行ってもらい、より関係が密になるよう取り計らってもらいたい。

協働事業

No.	28	事業名	奈良市子ども会議開催事業						
部名	子ども未来部			課名	子ども政策課				
総合計画上の 位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向	②	子育て中の親子の居場所づくり		
	基本施策	3-02	子育て			子育てに関する情報について広く周知し、子育て世代が奈良市に住みたい、住み続けたいと感じるまちづくりを目指します。			
	施策	3-02-01	子育て支援の推進						
相手方の名称	市民（原則10～17歳の子ども）				協働事業の実施手法	事業協力			
実施の時期	通年				事業開始年度	平成27年度			
令和2年度事業費	予算額		905		決算額	393		（単位：千円）	
事業の 概要・目的	「奈良市子どもにやさしいまちづくり条例」は、子どもたちが今を幸せに生きることができ、将来に夢と希望をもって成長していけるように、子ども参加によって大人とともにまちづくりを進めることを目的とする。そのためこの条例で規定している子どもが意見表明をし、参加する場として「奈良市子ども会議」を開催する。								
目標指標	指標名		奈良市子ども会議参加者の意見表明に対する満足度						
	単位	%	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	80	85	90	95	100	99
令和2年度 取組内容	実績値								
令和2年度	79.6								
取組内容	80.1								
	79.7								
	81.3								
	49.1								
令和2年度 取組内容	6回目となる令和2年度「奈良市子ども会議」では、話し合うテーマを「コロナ禍での奈良市の『新しいおもてなし』とは？」とした。当初は、令和元年度子ども会議の提案内容を、子ども達自身が実践し実現させる予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、オンラインで会議を開催し、令和元年度提案内容をベースにコロナ対策を取り入れた観光客へのおもてなし企画について話し合い、市長へ意見書を提出した。オンラインゆえの接続トラブル等の影響があり、意見表明に対する満足度は例年より低い結果となったが、「会議が楽しかったか」という問いに対し「とてもそう思う」「そう思う」と答えた参加者の割合は100%だった。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和2年度 事業評価		協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価			
		対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	—			
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	—
					自主性尊重	（行政） 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 （協働相手） 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	4	
					自立化	（行政） 協働相手の自立化を進められましたか。 （協働相手） 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	3	
						目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4
					相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	—
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	—
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	—
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	—
評価点							37	0

総合点	74
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	「コロナ禍での奈良市の『新しいおもてなし』とは？」をテーマに、新型コロナ感染対策を踏まえた観光客へのおもてなし企画や奈良のPR方法について、子ども参加者より多数の意見をいただいた。	なし
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	新型コロナウイルスの影響により、提案実現に至らなかったが、子どもたち自身が主体となって提案内容を実現するという意識をより強く持つてもらうために、アプローチを工夫することが必要である。	なし

協働事業

No.	29	事業名	子育て親子の集える場の提供							
部名	子ども未来部			課名	子ども育成課					
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉			展開方向	②	子育て中の親子の居場所づくり		
	基本施策	3-02	子育て				子育て親子の交流の促進や育児相談等ができる地域子育て支援拠点で、地域支援活動の取組を積極的に行い、事業の充実を図ります。			
	施策	3-02-01	子育て支援の推進							
相手方の名称	子育て支援団体（社会福祉法人、NPO法人等） 地区民生児童委員協議会・地区社会福祉協議会等				協働事業の実施手法		委託			
実施の時期	通年または月1・2回				事業開始年度		平成5年度			
令和2年度事業費	予算額		115,853		決算額		114,780		(単位：千円)	
事業の概要・目的	子育て親子（おおむね0～3歳児とその親）を対象に、交流の場の提供と交流の促進、子育て等に関する相談及び援助の実施、地域の子育て関連情報の提供、子育て及び子育て支援に関する講習等の多様な子育て支援活動を実施する。									
目標指標	指標名		子育て中の親子の集える場の利用者数の増加							
	単位	人 (年間延べ人数)	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
			目標値	151,000	164,000	177,000	190,000	190,000	83,000	
令和2年度取組内容			実績値	159,359	160,874	156,996	139,107	81,526		
	子育て親子の集える場において、子育てに関する講座やイベント、情報提供など多様な子育て支援活動を実施し、地域全体で子どもの育ち・親の育ちを支援した。新型コロナウイルス感染症の流行により利用者は減少したが、その中でも子育て親子が安心して利用できる居場所づくりを行った。また、令和2年度より地域子育て支援センター「そらいろ」を「統括拠点」とし、利用者支援事業を実施することで、更なる子育て支援の充実を図った。									
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由								



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	4
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
自立化	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5					
	できた	少しで できた	どちらとも 言えない	あまりで きなかった	できなかった	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	4	
(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。							4	
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
					相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	4
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
評価点							40	38

総合点	78
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価					A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	新型コロナウイルス感染症流行下にあっても、各々の拠点が自主的に地域や利用者に対して孤立や育児不安を解消できるよう支援を行った。 また、子育て支援団体、地区社会福祉協議会及び地区民生児童委員協議会について、地域住民と関わりながら感染症流行下でも可能な支援を模索し実施した。	・子育てナビゲーターの訪問や連携により、課題の解決やよりよい運営を考えることにつながった。 ・オンライン会議や研修により、他の拠点との交流や情報交換ができたことが良かった。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	各団体の特色やノウハウを活かし、引き続き利用者に寄り添った子育て支援及び地域貢献を主体的に実施できるよう求める。	・職員のスキルアップのための研修を実施してほしい。 ・他の拠点との交流や情報交換ができる場を設定してほしい。 ・行政から求められている課題が高いと感じることがある。

協働事業

No.	30	事業名	子育て支援アドバイザー							
部名	子ども未来部			課名	子ども育成課					
総合計画上の 位置付け	章	第3章	保健福祉			展開方向	⑤	子育ての相談窓口		
	基本施策	3-02	子育て				子育て親子にとって身近な場所で、子育てに関する相談や 情報提供を行うとともに、関係機関と連携し、子育て支援 の機能強化を図ります。			
	施策	3-02-01	子育て支援の推進							
相手方の名称	個人ボランティア及び子育て支援団体			協働事業の実施手法		委託				
実施の時期	随時			事業開始年度		平成18年度				
令和2年度事業費	予算額		1,000		決算額			1,000		(単位：千円)
事業の 概要・目的	地域の子育てで経験豊かな市民を「子育て支援アドバイザー」として登録し、子育て親子が集まる場所に派遣し、子育てに関する相談、助言、情報提供を行い、親の育児の負担感や不安感を軽減する。また、絵本の読み聞かせ、手遊び、親子体操等、子育て支援アドバイザーができる範囲で支援を行う。 なお、事務の効率化及び事業内容の充実を図るため、子育て支援の経験豊富なスタッフが在籍する地域子育て支援拠点事業の実施団体に、事業を委託している。									
目標指標	指標名		子育て支援アドバイザーの派遣回数							
	単位	回数	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
			目標値	500	500	500	500	500	500	
			実績値	552	537	500	487	190		
令和2年度 取組内容	新型コロナウイルス感染症拡大防止による地域子育て支援拠点の閉所等を受け、派遣回数は大きく減少したものの、可能な範囲において依頼元のニーズに沿った派遣を行った。加えて、子育てについての孤立感や不安感を抱く保護者に寄り添えるよう、地域の子育てで経験豊かな市民を募り、アドバイザーを養成講座を実施した。また、アドバイザー事業を地域子育て支援拠点事業の実施団体に委託し、事務の効率化と事業内容の充実を図った。									
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由								



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
←	←	→	→		自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
					相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
					評価点		42	43

総合点	85	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)							
		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	



	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	子育て支援アドバイザーが、地域子育て支援拠点や子育てサークルなどに出向き、利用者に関わることで、子育て親子の孤立感解消や、育児不安軽減の一助となった。	フォローアップ講座の実施にあたり、講師として、子ども育成課の子育てナビゲーターに参加していただき連携できた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	新型コロナウイルス感染症の流行を受け、事業の実績が目標値を大きく下回った。今一度事業の目的に立ち返り、今後の事業実施の方向性や内容について再考する必要がある。	新たに出来る統括拠点と当事業をどのように分担していくのか、見通しを聞かせていただきたい。

協働事業

No.	31	事業名	ファミリー・サポート・センター事業						
部名	子ども未来部			課名	子ども育成課				
総合計画上の 位置付け	章	第3章	保健福祉			展開方向	③	子どもの預り	
	基本施策	3-02	子育て				多様化する家庭環境に対応するため、保護者が一時的に子どもの養育が困難になった場合、安心して子どもを預けることができる子育て支援サービスの充実に努めます。		
	施策	3-02-01	子育て支援の推進						
相手方の名称		個人ボランティア及び市内で活動する法人			協働事業の実施手法		委託		
実施の時期		随時			事業開始年度		平成16年度		
令和2年度事業費		予算額		14,188		決算額		11,597 (単位：千円)	
事業の 概要・目的		「育児の援助を受けたい人」と「育児の援助を行いたい人」が依頼・援助・両方のいずれかの会員として登録し、児童の放課後の預かりや保育所等の送迎等で育児の援助が必要となったときに、会員相互の援助活動を行っている。 なお、事業の運営については、事務の効率化及び事業内容の充実を図るため、市内で活動する法人に委託している。							
目標指標	指標名		ファミリー・サポート・センターの相互援助活動件数						
	単位	件	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	3,800
			実績値	6,695	6,682	7,288	5,762	4,300	
令和2年度 取組内容		会員間での相互援助活動に加え、妊娠中や出産後の家庭にホームヘルパーを派遣し、家事や育児の援助を行った。 加えて、事業を利用した場合の利用料助成対象に多胎児世帯を追加し、利用者のさらなる負担軽減を図った。 なお、依然として依頼会員（育児の援助を受ける人）に比して援助会員（育児の援助を行う人）が少ない状況にあり、積極的な広報活動や援助を行いやすい環境づくりに引き続き取り組んだ。							
今後の方針		継続	拡大、縮小、廃止の理由						



令和２年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	4
← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自主性尊重	（行政）協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	4
						（協働相手）自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		
					自立化	（行政）協働相手の自立化を進められましたか。	4	4
						（協働相手）行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
					相互補充	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	4
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
					評価点			

総合点	76	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	



	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	新型コロナウイルス感染症流行のさなかであっても、援助会員の派遣は継続して実施しており、感染症流行により新たに生じたニーズにも対応することができた。 市内で活動する法人については、法人の持つ資源を事業に活用することができた。	スキルアップ講座の講師を派遣してもらえたことにより、援助会員の保育の質の向上につながったと考えられる。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	依頼会員数に比して援助会員数が少ないことについては、今後も援助会員の増加について取り組んでいく必要がある。 ホームヘルパーの派遣においては、奈良市の決定に対し派遣が大幅に遅れることがあり、改善されている状況にはあるものの、今後も事業の適正実施を求める。	エンゼルサポートにおいては要綱等の認識不足があり、市民に負担をかけることが起きてしまった。

協働事業

No.	32	事業名	視覚障害者向け広報等発行事業									
部名	福祉部				課名	障がい福祉課						
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉				展開方向	②	障がい者の社会参加と自立支援			
	基本施策	3-03	障がい者・児福祉					障がい者があらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めることを目的とした啓発、広報等の充実を図るとともに、スポーツ・文化活動の振興を図ります。				
	施策	3-03-01	障がい者・児福祉の充実									
相手方の名称		ボランティア団体				協働事業の実施手法		補助・助成				
実施の時期		通年				事業開始年度		昭和57年度				
令和2年度事業費	予算額		729		決算額		629		(単位：千円)			
事業の概要・目的		視覚障害者の内、希望者にしみんだよりなどの広報の点字版や音声版を製作し配布する。										
目標指標	指標名		活動の育成									
	単位	ボランティアの人数	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3			
			目標値	60	60	60	60	60	60			
			実績値	60	60	60	60	60				
令和2年度取組内容		市は点訳ボランティア及び音訳ボランティアに総合福祉センターの一室と点字用紙や録音用CD、製作用機材を提供し、ボランティアは市の広報誌等の点字版、音声版を製作、希望する視覚障害者に配布した。 また、障害者の地域生活を支援するボランティアを育成した。										
今後の方針		継続	拡大、縮小、廃止の理由									



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	—
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	—				
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5					
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。			—			
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	4					
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。			—			
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	—				
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	—				
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	—				
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	—				
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	—				
評価点			41	0				

総合点	82
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	市の広報誌等の点字版・音声版を製作し、希望する視覚障害者に配布することによって行政からの情報を伝えることができた。	市の広報誌等の点字版・音声版を製作し、希望する視覚障害者に配布することによって行政からの情報を伝えることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	ボランティア団体、行政とそれぞれの特性や役割をいかし、協働して事業を実施しているが、年々の状況の変化で生じた新たな課題等の共有・解消をより進めていく必要がある。	行政と適宜協議の場を持ち、より連携していきたい。

協働事業

No.	33	事業名	奈良市総合福祉センターの運営						
部名	福祉部			課名	障がい福祉課				
総合計画上の 位置付け	章	第3章	保健福祉			展開方向	②	障がい者の社会参加と自立支援	
	基本施策	3-03	障がい者・児福祉				障がい者があらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めることを目的とした啓発、広報等の充実を図るとともに、スポーツ・文化活動の振興を図ります。		
	施策	3-03-01	障がい者・児福祉の充実						
相手方の名称	(社福) 奈良市社会福祉協議会			協働事業の実施手法		指定管理			
実施の時期	通年			事業開始年度		平成22年度（指定管理者制度導入年度）			
令和2年度事業費	予算額		151,512		決算額		150,751	(単位：千円)	
事業の 概要・目的	障害者のための施策その他社会福祉施策の総合的な推進及び社会福祉活動の育成を図り、もって市民の福祉の増進に資するために設置された総合福祉センターを運営する。								
目標指標	指標名		施設の利用者数						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	90,000	90,000	90,000	90,000	90,000	90,000
			実績値	84,859	90,945	89,456	75,880	19,262	
令和2年度 取組内容	障害者福祉及び市民の福祉活動の振興を図り、もって市民の福祉の向上に資するため、奈良市社会福祉協議会を指定管理者として総合福祉センターの施設運営を行った。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和２年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価	
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5	
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	5	
←	←	→	→		自主性尊重	（行政）協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5		
						（協働相手）自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。			5
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	（行政）協働相手の自立化を進められましたか。	5		
						（協働相手）行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。			5
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	5	
						相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
							公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4
						相互変革		協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5
						期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
評価点							41	43	

総合点	84
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	



総合評価					A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	指定管理者のノウハウをいかすとともに適宜情報共有し、協働して施設運営することで市民等の福祉活動の振興及び福祉の向上に資することができた。また、市の感染状況に応じて随時必要な対応ができた。	令和2年度においてはコロナ感染防止の対応の為にその機会が多く、可能な限り市民サービスの低下にならないよう協働したことにより、利用者の感染防止と一定程度の協働事業の利用を得られた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	新型コロナウイルスの影響で社会情勢がますます変化の中で、適宜、市の感染状況に応じて迅速かつ適切に対応および連携を図っていく必要がある。また、より効果的・効率的な施設運営を行うためにも協働相手と目的や問題意識等を共有する必要がある。	市の感染状況に従い臨時休館、主催事業の延期休講等があり、利用者に対しての配慮を十分にできなかった。行政と指定管理施設の開館日の時差が生まれ利用者に連絡がいち早くできないケースがあった。

協働事業

No.	35	事業名	認知症サポーター養成講座						
部名	福祉部			課名	福祉政策課				
総合計画上の 位置付け	章	第3章	保健福祉			展開方向	② 高齢者福祉サービスの充実		
	基本施策	3-04	高齢者福祉				認知症の人も介護者も住み慣れた地域で安心して生活できるよう、認知症地域支援推進員や地域包括支援センターと連携を図り、地域全体で認知症の人とその家族を支えるネットワークを構築し、総合的かつ継続的な支援を推進します。		
	施策	3-04-01	高齢者福祉の充実						
相手方の名称	地域包括支援センター職員を含むキャラバンメイト				協働事業の実施手法		事業協力		
実施の時期	通年				事業開始年度		平成20年度		
令和2年度事業費	予算額		214		決算額		68		(単位：千円)
事業の 概要・目的	国の認知症サポーター100万人キャラバン事業に基づき、認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族を温かく見守り、支援する認知症サポーターの養成や、その養成のための講師となるキャラバン・メイトの活動を支援する。								
目標指標	指標名		認知症サポーターを5ヶ年で約12,000名を養成予定、その後継続して実施						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	14,200	16,500	18,900	23,100	26,000	28,000
令和2年度 取組内容			実績値	14,037	17,908	20,807	25,425	27,112	
	認知症サポーターの更なる養成を行うため、未活動となっているキャラバンメイトが認知症サポーター養成講座の講師役として広く活動できるよう、認知症地域支援推進員や地域包括支援センターと協働し取り組む。また、認知症の人やその家族などが集う場であるオレンジカフェ（認知症カフェ）運営者との協働も含め、養成講座受講後もボランティアとして活躍できる場を提供できるよう支援する。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和２年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	4
5 ← できた	4 ←	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5			
	3 →		自主性尊重	（行政） 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5			
	2 →	（協働相手） 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。			5			
	1 →	自立化	（行政） 協働相手の自立化を進められましたか。	4				
	できなかった		（協働相手） 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。			5		
		目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	5			
		相互補充	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4			
		公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	4			
		相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4			
		期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4			
					評価点	40	40	

総合点	80	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	



	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	認知症サポーター養成講座開催を通じて、開催先となる各種団体や受講者に対し、認知症の人に優しいまちづくりのための認知症への理解を深める等、普及・啓発を図ることができた。	行政との協働により、市民・団体・学校などへの普及啓発が推進できた。認知症の理解を深めることだけが目的ではなく、「認知症の人を含むすべての人に優しいまち」をめざして、「まちづくり」をみんなで一緒に考えることができる講座ができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	認知症サポーター養成講座開催の要望が多い地域では、講師役となる地域包括支援センターのキャラバンメイトの負担が大きくなってきている。キャラバンメイトにはなっているが、活動に至っていない人の中で、意欲のあるキャラバンメイトを発掘し、活動へと結びつける支援が必要。	認知症への関心が高まっており、多様な開催場所・日時・対象の講座開催が求められている。キャラバンメイトへの継続的フォローアップが必要である。認知症のことを自分ごととしてとらえ各地域にあわせたまちづくりがすすむように、地域住民や行政職員のキャラバンメイトも増えることが望ましい。

協働事業

No.	36	事業名	老人福祉センターの運営						
部名	福祉部			課名	長寿福祉課				
総合計画上の 位置付け	章	第3章	保健福祉			展開方向	③	高齢者福祉施設の整備	
	基本施策	3-04	高齢者福祉				老人福祉センターにおける高齢者の各種相談、健康の増進・介護予防の推進、生きがいつくりと社会参加を推進します。		
	施策	3-04-01	高齢者福祉の充実						
相手方の名称	(福) 奈良市社会福祉協議会				協働事業の実施手法		指定管理		
実施の時期	通年				事業開始年度		平成20年度		
令和2年度事業費	予算額		129,000		決算額		125,979	(単位：千円)	
事業の 概要・目的	高齢者の心身の健康保持及び増進を図るとともに、地域における交流の場として便宜を供与することによって生きがいつくりに寄与し、もって高齢者の福祉に資するため、東・西・南・北4箇所の老人福祉センターを運営する。								
目標指標	指標名		利用者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	192,000	194,000	196,000	198,000	200,000	200,000
令和2年度 取組内容			実績値	190,319	182,883	185,302	147,583	38,074	
	・老朽化による故障等のために施設の一部が使用不可能となる事態が近年多発しているが、指定管理者との綿密な情報共有により迅速に修繕対応を行うことができた。 ・コロナウイルス感染予防対策のため、一時休館や利用制限等を設けなければならなかったが、感染予防対策を行いながら施設運営を行い、高齢者の心身の健康保持及び増進を図るとともに、地域における交流の場として便宜を供与した。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和２年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	4
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	4
←	←	→	→		自主性尊重	（行政） 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
						（協働相手） 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	（行政） 協働相手の自立化を進められましたか。	3	
						（協働相手） 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	4
						相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	4
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	4
					評価点			

総合点	73	総合評価					B
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	



	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	新型コロナウイルスの影響により通常の施設運営ができなかったため、指定管理者と緊密に連携をとることで利用状況等の現状について共通認識を持ち、これを踏まえた施設運営方針を策定することができた。これによりコロナ禍において安心安全に、可能な限り最大限施設を稼働させることができた。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館や利用の制限があり計画どおりの運営ができない中、感染状況や対策の徹底など相互に情報交換及び共有しながら住民の安全・安心で利用できる施設運営を推進することができた。また、コロナ禍でのフレイル防止のため介護予防教室の動画を市ホームページ及び市社協ホームページで配信した。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	新型コロナウイルスの影響により施設の利用方法及び内容等がこれまでと異なる形式となるため、引き続き指定管理者との協働を推進することで情報共有を緊密に行い、利用者への情報発信をより円滑に行う工夫をする必要がある。	コロナ禍における事業開催など、感染対策を十分に行ったうえで高齢者を中心とした住民のニーズに沿った展開が必要である。市社協が推進する居場所づくりや「つながり」「見守り」「支えあい」を推進する運営を目指し、さらなる連携が必要になってくる。また施設の老朽化による故障など利用者へのサービス低下させることなく早期対応と情報提供と共有、改修、整備予算の獲得が必要である。

協働事業

No.	37	事業名	奈良市立都祁診療所・月ヶ瀬診療所の運営									
部名	健康医療部				課名		医療政策課					
総合計画上の位置付け	章	第3章		保健福祉			展開方向	①	医療体制の充実			
	基本施策	3-05		医療				東部・月ヶ瀬・都祁ゾーンの医療ニーズを把握するとともに、地域医療の確保のために各診療所の充実や在宅医療の充実に努める。				
	施策	3-05-01		医療の充実								
相手方の名称		公益社団法人 地域医療振興協会				協働事業の実施手法		指定管理				
実施の時期		通年				事業開始年度		平成22年度（指定管理者制度導入年度）				
令和2年度事業費		予算額		40,304			決算額		41,839		（単位：千円）	
事業の概要・目的		医療機関の少ない東部地域において、安定した保健医療サービス（診療、健康診断、健康相談、予防接種等）を行うことにより、地域の住民の方々に安心して健やかな生活を営んでいただくよりどころとする。 （※東部地域医療の特性上、目標値の設定はせず実施値のみ記載する。）										
目標指標	指標名		診療所利用者数									
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3			
			目標値									
			実績値	18,188	17,467	16,871	16,630	17,330				
令和2年度取組内容		指定管理者との管理運営協議会を設置し、情報共有を行うことでより良い診療所運営を行う。										
今後の方針		継続	拡大、縮小、廃止の理由									



令和2年度 事業評価		協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価			
		対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5			
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
	←	←	→	→	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	5	
						目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5
できた	少しで できた	どちらとも 言えない	あまりで きなかった	できな かった	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	4
評価点							43	42

総合点	85
行政・協働相手の評価点を合計して算出 （※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	協働の相手方である協会（地域医療振興協会）の管理運営のノウハウを活かし、協会が行う他の事業の実績を反映させることができた。また、協会は市立奈良病院の指定管理者でもあるため、市立奈良病院との連携を図ることができた。	奈良市への事業計画及び決算書の提出、毎月の患者数報告により診療所の現状と問題点を共有する事ができた。また、運営に関しては、協会が市立奈良病院の指定管理者であることなども活かして医師の手配などを円滑に行い、安定した運営を行うことができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	今後も互いの協力関係を継続しながらも協会の特性を活かし、自主性・独自性を発揮することにより、地域医療への貢献につなげていく。	施設の経年劣化が著しく、奈良市と協議しながら、適切な補修等を行い患者の利便性と満足度向上に務めたい。

協働事業

No.	38	事業名	奈良市立柳生診療所・田原診療所の運営						
部名	健康医療部			課名	医療政策課				
総合計画上の 位置付け	章	第3章	保健福祉			展開方向	①	医療体制の充実	
	基本施策	3-05	医療				東部・月ヶ瀬・都祁ゾーンの医療ニーズを把握するとともに、地域医療の確保のために各診療所の充実や在宅医療の充実に努める。		
	施策	3-05-01	医療の充実						
相手方の名称	公益社団法人 地域医療振興協会				協働事業の実施手法		指定管理		
実施の時期	通年				事業開始年度		平成18年度（指定管理者制度導入年度）		
令和2年度事業費	予算額		26,509		決算額		28,235		（単位：千円）
事業の 概要・目的	医療機関の少ない東部地域において、安定した保健医療サービス（診療、健康診断、健康相談、予防接種等）を行うことにより、地域の住民の方々に安心して健やかな生活を営んでいただくよりどころとする。 （※東部地域医療の特性上、目標値の設定はせず実施値のみ記載する。）								
目標指標	指標名		診療所利用者数						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値						
			実績値	6,549	6,120	6,112	5,943	5,312	
令和2年度 取組内容	指定管理者との管理運営協議会を設置し、情報共有を行うことでより良い診療所運営を行う。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
できた 少しできた どちらとも言えない できなかった					自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	5	
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
					相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	4
					評価点			

総合点	85
行政・協働相手の評価点を合計して算出 （※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	協働の相手方である協会（地域医療振興協会）の管理運営のノウハウを活かし、協会が行う他の事業の実績を反映させることができた。また、協会は市立奈良病院の指定管理者でもあるため、市立奈良病院との連携を図ることができた。	奈良市への事業計画及び決算書の提出、毎月の患者数報告により診療所の現状と問題点を共有する事ができた。また、運営に関しては、協会が市立奈良病院の指定管理者であることなども活かして医師の手配などを円滑に行い、安定した運営を行うことができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	今後も互いの協力関係を継続しながらも協会の特性を活かし、自主性・独自性を発揮することにより、地域医療への貢献につなげていく。	施設の経年劣化が著しく、奈良市と協議しながら、適切な補修等を行い患者の利便性と満足度向上に務めたい。

協働事業

No.	39	事業名	奈良市立興東診療所の運営																					
部名	健康医療部				課名		医療政策課																	
総合計画上の 位置付け	章	第3章		保健福祉			展開方向	①	医療体制の充実															
	基本施策	3-05		医療				東部・月ヶ瀬・都祁ゾーンの医療ニーズを把握するとともに、地域医療の確保のために各診療所の充実や在宅医療の充実に努める。																
	施策	3-05-01		医療の充実																				
相手方の名称													公益社団法人 地域医療振興協会			協働事業の実施手法			指定管理					
実施の時期													通年			事業開始年度			平成28年度					
令和2年度事業費													予算額		10,132			決算額		11,000		(単位：千円)		
事業の 概要・目的													医療機関の少ない東部地域において、安定した保健医療サービス（診療、健康診断、健康相談、予防接種等）を行うことにより、地域の住民の方々に安心して健やかな生活を営んでいただくよりどころとする。 (※東部地域医療の特性上、目標値の設定はせず実施値のみ記載する。)											
目標指標													指標名		診療所利用者数									
													単位		人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3		
																目標値								
													実績値	322	427	494	534	565						
令和2年度 取組内容													指定管理者との管理運営協議会を設置し、情報共有を行うことでより良い診療所運営を行う。											
今後の方針													継続		拡大、縮小、廃止の理由									



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価	
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5	
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5	
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5		
自立化	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5						
	できた	少しで できた	ど ちらとも 言えない	あ まりで きなかつ た	で きな かつ た		(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	5	
(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。								5	
						目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
						相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
						公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
						相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
						期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
						評価点		43	43

総合点	86
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	協働の相手方である協会（地域医療振興協会）の管理運営のノウハウを活かし、協会が行う他の事業の実績を反映させることができた。また、協会は市立奈良病院の指定管理者でもあるため、市立奈良病院との連携を図ることができた。	奈良市への事業計画及び決算書の提出、毎月の患者数報告により診療所の現状と問題点を共有する事ができた。また、運営に関しては、協会が市立奈良病院の指定管理者であることなども活かして医師の手配などを円滑に行い、安定した運営を行うことができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	今後も互いの協力関係を継続しながらも協会の特性を活かし、自主性・独自性を発揮することにより、地域医療への貢献につなげていく。	近隣住民や患者の方から頂いた意見を情報共有し、問題の解決に努めたいと考えている。又、自主性・独自性を発揮することにより地域医療の貢献につなげていく。

協働事業

No.	40	事業名	20日ならウォーク						
部名	健康医療部			課名	健康増進課				
総合計画上の 位置付け	章	第3章	保健福祉			展開方向	② 成人保健事業の推進		
	基本施策	3-06	保健				運動習慣づくりや食生活改善、禁煙等生活習慣病発症の予防を目的とした健康教育・健康相談など身近な保健サービスを提供し、一人ひとりの健康づくりを支援するほか、市民・民間・行政が一体となって健康づくりに取り組む体制づくりを行います。		
	施策	3-06-01	健康づくり推進						
相手方の名称	奈良市運動習慣づくり推進員協議会			協働事業の実施手法		委託			
実施の時期	通年			事業開始年度		平成18年度			
令和2年度事業費	予算額		240		決算額		140 (単位：千円)		
事業の 概要・目的	奈良市運動習慣づくり推進員との協働で、毎月20日に市内をウォーキングする。効果的なウォーキング方法の啓発及び運動習慣の定着を支援し、生活習慣病予防につなげる。								
目標指標	指標名		奈良市運動習慣づくり推進員協議会主催実施回数						
	単位	回	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	11	11	11	11	11	7
			実績値	10	10	8	8	0	
令和2年度 取組内容	・屋外ウォーキング（年10回）、奈良市運動習慣づくり推進員スキルアップ研修会は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止。 ・奈良市運動習慣づくり推進員協議会と活動計画について検討会議を実施した。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和2年度 事業評価		協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
		対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	3
5 ← できた	4 ←	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	4
	3 →		自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5
	2 →	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	2
	1 できなかった		目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5
		相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
		公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	4
		相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	3
		期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
				評価点	44

総合点	80
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	屋外ウォーキング（年10回）、奈良市運動習慣づくり推進員スキルアップ研修会は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止となったが、奈良市運動習慣づくり推進員と新型コロナウイルス感染症の対策を講じ安全に実施するための活動計画について検討することができた。	令和2年度は新型コロナ感染防止のため、ウォーキングは1度も開催できなかったが、「参加者の安全と安心を確保したうえで開催する」という共通の目的の下、実行委員会ではお互いの立場を尊重しながら実施に向けての取組等を検討することが出来た。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	新型コロナウイルスの感染拡大防止のため活動を中止にした。令和元年度に奈良市運動習慣づくり推進員協議会に加入した10期生が、推進員として活動ができるよう研修会の開催が必要である。推進員からも同様の声があり、令和3年度中の研修会の実施を検討している。	①運推協では、ステージⅡにおいてもガイドラインに沿って、感染防止に配慮しながら再開、運営をしたかったが行政の意向でそれが出来なかった。行政相手の協働ではどうしても行政の考えが優先される。 ②行政が協働相手の場合、事務的業務等を行政に依存しがちな傾向がある。

協働事業

No.	41	事業名	奈良市総合医療検査センターの運営									
部名	健康医療部			課名	医療政策課							
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉			展開方向	①	医療体制の充実				
	基本施策	3-06	保健福祉				東部・月ヶ瀬・都祁ゾーンの医療ニーズを把握するとともに、地域医療の確保のために各診療所の充実や在宅医療の充実に努める。					
	施策	3-06-01	健康づくりの推進									
相手方の名称	一般社団法人 奈良市医師会				協働事業の実施手法		指定管理					
実施の時期	通年				事業開始年度		平成28年度（当該指定管理開始年度）					
令和2年度事業費	予算額		4,120		決算額		239,478		（単位：千円）			
事業の概要・目的	市民の日常の健康増進、疾病の予防及び発見、リハビリテーションまでの包括的な保健医療サービスを効果的に提供するため総合医療検査センターを設置し、人間ドッグ、がん検診及び定期健康診断等の検診事業並びに食事栄養指導、運動指導及び健康講座等の健康増進事業等を実施する。											
目標指標	指標名		センター利用件数									
	単位	件	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3			
			目標値	127,500	128,000	140,000	140,000	140,000	140,000			
			実績値	131,806	135,528	137,239	140,302	125,601				
令和2年度取組内容	市民の健康の保持・増進、疾病の早期発見及び予防の推進のため、検診受診者の拡大を図るとともに検査事業においては精度管理に努める。											
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由										



令和2年度 事業評価		協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価			
		対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5			
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
←	←	→	→	自主性尊重		（行政） 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 （協働相手） 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった						自立化	（行政） 協働相手の自立化を進められましたか。	5
				（協働相手） 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。				5
				目的共有		協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
				相互補完		お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
				公開		協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	5
				相互変革		協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5
				期限設定		事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
								評価点

総合点	90
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	市医師会が総合医療検査センターの管理運営を行うことにより、検診検査を専門本とする施設の特性を活かし、市民の健康の保持増進を図ることができた。また、令和2年度は、新型コロナウイルスにかかる検体接種、検査等の事業も始まり、感染者の早期発見や検体接種の増加にも繋がった。	施設の運営にあたり指定管理者として協働することで、市民の健康の保持増進という目的をを共有することができ、各事業の取り組みにおいて協力体制が築けた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	経年による施設の維持補修が必要となっており、予算措置に苦慮している。	施設に関して、日々の即効性を必要とする小規模補修は、業務が滞ると困るので改修を行っているが、大規模補修については、施設の老朽化に伴い今後増えてきますので、予算措置をお願いしたい。

協働事業

No.	42	事業名	奈良市食育ネット						
部名	観光経済部			課名	農政課				
総合計画上の 位置付け	章	第3章	保健福祉			展開方向			
	基本施策	3-06	保健福祉						
	施策	3-06-01	健康づくりの推進						
相手方の名称	奈良市食育ネット				協働事業の実施手法	事業協力			
実施の時期	通年				事業開始年度	平成30年5月（旧事業27年度）			
令和2年度事業費	予算額		89		決算額	0		（単位：千円）	
事業の 概要・目的	食育基本法及び第3次奈良市食育推進計画（平成31年3月策定）に基づき、食に関する団体（ボランティア、大学、食関連事業者、飲食店等）と協働のもと食育を推進する。農政課は事務局を担い、参加団体を市ホームページに掲載する。年に1回協働で食育イベントを開催する。（組織改正により、平成31年4月から事務局が医療政策課から農政課になった）								
目標指標	指標名		奈良市食育ネット参加団体数						
	単位	団体数	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	35	45	50	60	65	65
			実績値	43	48	59	60	61	
令和2年度 取組内容	食育月間でのパネル展示や広報紙において団体の取組を紹介した。また、食育関連事業に関する情報提供、相互協力に関わる調整を行った。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価				
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5				
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5				
←	←	→	→	できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	自主性尊重	（行政） 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 （協働相手） 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	4	5				
					自立化	（行政） 協働相手の自立化を進められましたか。 （協働相手） 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4		5			
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5				
					相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5				
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	5				
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5				
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5				
					評価点						43	45

総合点	88
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	各団体が積極的な活動が行われており、その様子を広報紙等を通して紹介することで、市民の関心を得ることができた。	様々な立場の関係者が連携・協働するかたちで組織運営が進められている。行政が適切なアドバイスと事務局業務を担い、食育ネットの主体的活動を支援してくれることにより、円滑な運営につながっている。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	関係機関・団体からの食育に関する相談に対して、適切な人材をマッチングするなど、食育ネットの繋がりをさらなる展開へ繋げたい。	奈良市食育推進計画の目標達成に向け、今後も引き続き多様な関係者による連携・協働の取り組みが必要である。今後とも支援をお願いしたい。

協働事業

No.	43	事業名	森林保全・緑化事業						
部名	観光経済部			課名	農政課				
総合計画上の 位置付け	章	第⑥章	経済			展開方向	⑤	林業の振興	
	基本施策	6-03	農林業				森林環境の保全及び森林を守り育てる意識を醸成します。		
	施策	6-03-01	農林業の振興						
相手方の名称	奈良市巨樹保存等審議会委員				協働事業の実施手法	審議会・委員会等			
実施の時期	通年				事業開始年度	平成15年度			
令和2年度事業費	予算額		196		決算額	0		(単位：千円)	
事業の 概要・目的	森林を保護・育成し森林の保全及び緑化推進の市民意識の向上を図る。また、奈良市巨樹の保存及び緑化の推進に関する条例に基づき、巨樹の保存等に努める。								
目標指標	指標名		保存樹指定本数						
	単位	本	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	26	26	27	27	28	28
			実績値	25	25	25	24	24	
令和2年度 取組内容	巨樹等の指定は平成15年度から開始したが、令和2年度については新規指定の申請がなかった。引き続き、新規の申請があれば指定を検討していく。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和２年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。					—	—
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。					—	—
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。					—	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。					—	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。					—	—
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。					—	—
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。					—	—
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。					—	—
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。					—	—	
評価点							0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	新たな巨樹指定の申請がなかったことから、当該審議会の開催がなかった。	
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

協働事業

No.	44	事業名	自主防災防犯組織活動						
部名	危機管理監			課名	危機管理課				
総合計画上の 位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向	②	防災意識の高揚		
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全・安心(防災・消防・防犯・交通安全)			自主防災組織の結成率向上、子育て世代の加入促進など組織強化への支援、防災士の育成支援等、組織体制の充実・活性化に努め、防災意識の高揚を図ります。			
	施策	4-01-01	総合的な危機管理						
相手方の名称	自主防災防犯組織			協働事業の実施手法	補助・助成				
実施の時期	通年			事業開始年度	平成18年度				
令和2年度事業費	予算額	18,615		決算額	18,300		(単位：千円)		
事業の 概要・目的	各地区の防災防犯力の向上を図り、安全安心なまちづくりを推進するため、自主防災防犯組織が行う防災訓練、防犯活動等の各種防災防犯活動を支援する。この際、各地区の自主防災防犯組織の均一的な活性化に留意しつつ、自主防災防犯協議会と合同で防災訓練等を実施するとともに、防災士育成、資機材購入等の防災防犯活動に対して、活動交付金を交付し、自助・共助・公助連携の向上を図る。								
目標指標	指標名	各地区自治連合会等を基本とした自主防災防犯組織の結成率							
	単位	%	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	98	100	100	100	100	100
			実績値	100	100	100	100	100	
令和2年度 取組内容	自主防災防犯組織に自主防災防犯組織活動交付金を交付し、防災訓練、研修会の支援を行った。また、自主防災防犯組織全体の防災防犯力のレベルアップと継続した取組が行われるよう、組織内の人材育成研修や新任役員研修の実施に向けた準備を進めた。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価	
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	5	
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	5	
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4		
自立化	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		4						
	できた	少しで できた	ど ちらとも 言えない	あ まりで きなかつ た	で きな かつ た		(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	5	
(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。								2	
						目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	5
						相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	5
						公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	4
						相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
						期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	5
						評価点		36	39

総合点	75
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				B
A 評価	B 評価	C 評価	D 評価	E 評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	安全安心なまちづくりには、行政主導での事業のみならず、地域が自主的に防災・防犯活動に取り組むことが重要であることの相互理解が深まった。	防災・防犯活動だけでなく、安全・安心の観点から、コロナ対策等の共有ができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	防災対策に関する課題を共有し、課題解決に向けた取組を推進していきたい。	防災対策で、避難所となる学校との連携が自主防災組織として取りにくいところがある。 行政担当者及び自主防災組織会長の異動による変化により、事業、考え方や連携の取り方等の継続や維持が難しい。

協働事業

No.	45	事業名	独り暮らし高齢者世帯防火訪問							
部名	消防局			課名	予防課					
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境			展開方向	②	防火、防災における市民等との協働の推進		
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全・安心（防災・消防・防犯・交通安全）				女性防災クラブとの協働による一般家庭防火訪問（住宅用火災警報器の普及促進と出火防止対策）の実施等防火対策の推進と、自力避難困難者収容施設への査察の強化を図ります。			
	施策	4-01-02	消防・救急救助体制の充実							
相手方の名称	奈良市女性防災クラブ				協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年				事業開始年度	昭和46年度				
令和2年度事業費	予算額		11		決算額	9		（単位：千円）		
事業の概要・目的	火災時に死傷者の発生する割合の高い高齢者世帯に対する防火啓発により住宅火災の防止、被害の減少を図ることを目的とする。そのために、70歳以上の独り暮らし高齢者世帯を対象に防火訪問を実施する。									
目標指標	指標名	女性防災クラブ員一人当たり訪問回数の増（※R2実績はポスティングのみの実施数）								
	単位	一人当たり訪問回数	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
			目標値	1.3	1.7	1.8	1.9	2.3	2.3	
			実績値	1.6	1.8	2.3	2.6	2.1		
令和2年度取組内容	各地区女性防災クラブ員が、それぞれの地域の独り暮らし高齢者世帯の防火訪問を実施する。令和2年度にあっては、コロナウイルス感染拡大対策のため、対面訪問を中止し、啓発チラシポスティングのみの実施となった。									
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由								



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	4	
できた 少しできた どちらとも言えない できなかった					自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
					相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	5
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	4
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
					評価点		38	40

総合点	78
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	各クラブの地域に密着した啓発活動により、市内の火災件数は減少傾向にある。	今年度は、コロナウイルス感染予防を第一に考え、啓発チラシのポスティングとなったが、このコロナ禍においても出来ることを考え事業を継続した。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	令和2年度は全23クラブ中、18クラブでの実施となった。地域の安全安心のため、各クラブとの意思統一を図り更なる事業の推進を図る。	防火、防災力の向上には地域コミュニケーションの向上が最も大切であると考え、今後もスムーズかつ効果的な活動が実施できるよう協力をお願いしたい。

協働事業

No.	46	事業名	応急手当普及及啓発活動事業						
部名	消防局			課名	救急課				
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境			展開方向	②	防火・防災における市民等との協働の推進	
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全（防災・消防・防犯・交通安全）				市民を対象とした応急手当普及啓発活動を推進します		
	施策	4-01-02	消防・救急救助体制の充実						
相手方の名称	市内在住・在勤者				協働事業の実施手法	事業協力			
実施の時期	通年				事業開始年度	平成6年度			
令和2年度事業費	予算額		659		決算額	378		（単位：千円）	
事業の概要・目的	応急手当講習会を受講してもらうことにより、応急手当の必要性を認識していただき、病院前救護の充実を図る。								
目標指標	指標名		市民の4人に1人が応急手当講習修了者となること						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	3,360	3,360	3,593	5,053	5,053	5,053
令和2年度取組内容			実績値	2,521	2,103	2,161	2,252	264	
	各種事業所・各種団体及び自治会等に対して応急手当講習会の受講を推進し、応急手当講習会の広報を継続して行い各種イベントを通して応急手当の展示と講習会の広報を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため感染拡大期には中止に至り目標値に達することが出来なかった。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	—	—
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	—	
できた 少しできた どちらとも言えない できなかった					自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	—	
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	—	—
					相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	—	—
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	—	—
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	—	—
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	—	—
					評価点			

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

協働事業

No.	47	事業名	市民メディカルラリーの実施									
部名	消防局			課名	消防総務課							
総合計画上の 位置付け	章	第4章	生活環境			展開方向	②	防火、防災における市民等との協働の推進				
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全安心				行政や地域住民等と消防団が適切な役割分担をしながら相互に連携協力し、地域防災の基盤を確立するとともに、消防団が自主的に推進する事業の強化を図ります。					
	施策	4-01-02	消防・救急救助体制の充実									
相手方の名称	市民メディカルラリー運営委員会				協働事業の実施手法		実行委員会・協議会					
実施の時期	通年				事業開始年度		平成30年度					
令和2年度事業費	予算額		1,400		決算額		0		(単位：千円)			
事業の 概要・目的	市民メディカルラリーを通じて地域の防災組織及び防災関係団体等との連携を強化し、地域防災力を高めることを目的とする。											
目標指標	指標名		メディカルラリー参加者数									
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3			
			目標値			450	450	450				
			実績値			450	160	0				
令和2年度 取組内容	新型コロナウイルス感染症対策のため、今年度の開催は中止。											
今後の方針	廃止	拡大、縮小、廃止の理由		今後は消防団員に対しファーストエイド研修を積極的に実施していくことにより、団員個々のスキルアップを図り、地域防災力を強化に繋げるよう方針を転換する。								



令和２年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。				—	—	
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。				—	—	
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。				—	—	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。				—		
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。				—	—	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。				—		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。				—	—	
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。				—	—	
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。				—	—	
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。				—	—	
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。				—	—		
評価点						0	0	

総合点	0	総合評価				
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18



	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

協働事業

No.	48	事業名	放置自転車対策の推進						
部名	環境部			課名	環境政策課				
総合計画上の 位置付け	章	第 4 章	生活環境			展開方向	③	放置自転車対策	
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全・安心（防災・消防・防犯・交通安全）				駅周辺の放置自転車の撤去を強化することにより、 道路交通の安全と円滑化を図ります。		
	施策	4-01-03	交通安全の確保						
相手方の名称	地元商業施設				協働事業の実施手法	事業協力			
実施の時期	通年				事業開始年度	平成23年度			
令和2年度事業費	予算額		0		決算額	0		（単位：千円）	
事業の 概要・目的	地元商業施設の方々の協力を得て、自転車等放置禁止区域内における放置自転車の発生を防ぐ。								
目標指標	指標名		市内放置禁止区域内の放置自転車等の減						
	単位	台	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	2,080	2,060	2,040	2,020	2,000	2,000
			実績値	1,876	1,653	1,173	900	396	
令和2年度 取組内容	地元商業施設等に放置自転車等の情報を提供し、協力して放置自転車等の移動をおこなうとともに自転車等放置禁止区域の周知啓発により放置自転車の発生を防ぐよう努めた。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
5 ← できた	4 ← 少しで きた	3 → どち らとも 言え ない	2 → あま りで きな かつ た	1 → で き な か つ た	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	—
					相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	—
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	—
						(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	4	
					自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	4	—
						(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	—
					相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	—
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	—
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	—
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	—					
評価点							36	0

総合点	72
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	



総合評価					B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	情報共有、啓発、移動等により放置自転車は減少傾向にある。	なし
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	放置自転車の更なる減少を目指し、情報共有を継続していく。	なし

協働事業

No.	49	事業名	奈良市自転車駐車場の運営									
部名	環境部			課名	環境政策課							
総合計画上の 位置付け	章	第4章	生活環境			展開方向	③	放置自転車対策				
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全・安心（防災・消防・防犯・交通安全）				自転車利用者の利便性を高め、道路交通の安全と円滑化を図るため、民間活力を利用し、駅周辺に自転車駐車場を充実させます。					
	施策	4-01-03	交通安全の確保									
相手方の名称	事業者（ミディ総合管理株式会社）				協働事業の実施手法		指定管理					
実施の時期	通年				事業開始年度		平成18年度（指定管理者制度導入年度）					
令和2年度事業費	予算額		68,749			決算額		68,804		（単位：千円）		
事業の 概要・目的	市内の駅周辺における自転車等の駐車秩序を確立することにより、街の美観を維持するとともに、自転車利用者の駐車の手便を図る。											
目標指標	指標名		自転車利用者の利便性を高め、道路交通の安全と円滑化を図る									
	単位	台	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3			
			目標値	3,360	3,360	3,360	3,360	3,360	3,360			
			実績値	3,360	3,360	3,360	3,360	3,360				
令和2年度 取組内容	指定管理者と連絡調整を行いながら、施設のより良い運営に努めた。											
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由										



令和2年度 事業評価		協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
		対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5 ← できた	4 ←	3 →	2 →	1 →	できなかった
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。		5	5
	自主性尊重	（行政）協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。		5	5
		（協働相手）自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。			
	自立化	（行政）協働相手の自立化を進められましたか。		5	5
		（協働相手）行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。			
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。		5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。		5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。		5	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。		5	5
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。		3	3	
評価点				43	43

総合点	86
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	新型コロナウイルスにより、定期利用者の一時利用休止などイレギュラーな事態が生じたが、民間のノウハウ・経験を活かした柔軟な対応により、大きな問題も無く、施設の良好な運営管理を行うことができた。	情報を共有することによって、迅速かつ丁寧なサービスを提供することができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	より良い施設運営を目指し、情報共有を継続していく。	情報共有を密にし、より質の高い運営管理を行う。

協働事業

No.	50	事業名	地域防犯活動推進事業						
部名	危機管理監			課名	危機管理課				
総合計画上の 位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向	③	地域の防犯力の強化		
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全・安心(防災・消防・防犯・交通安全)			防犯意識の普及及び防犯施策を推進することにより、犯罪や事故等のない、明るく住みよい地域社会を推進する。			
	施策	4-01-04	防犯力の充実						
相手方の名称	生涯学習財団、自主防災防犯組織			協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年			事業開始年度	平成21年度				
令和2年度事業費	予算額	196		決算額	195		(単位：千円)		
事業の 概要・目的	奈良市安全安心まちづくり基本計画に基づき、安全で安心して暮らせるまちづくりを推進するため、市民が自らの安全は自ら守り、地域の安全は地域で守るという自主防犯意識を高めるため、自治会や自主防災防犯組織などの団体を対象とした防犯教室を実施する。また、令和2年度から、生涯学習財団と共催し、公民館で防犯教室を開催している。								
目標指標	指標名	防犯教室実施回数							
	単位	回	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	8	11	14	17	20	20
			実績値	8	12	23	36	13	
令和2年度 取組内容	奈良市安全安心まちづくり基本計画に基づき、安全で安心して暮らせるまちづくりを推進するため、市民が自らの安全は自ら守り、地域の安全は地域で守るという自主防犯意識を高めるため、市民や自主防犯組織などの団体を対象とした防犯教室を実施した。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和２年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	3
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
←	←	→	→	できた 少しか どち あま でき な か つ た	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	5
						(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		
					自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	4	3
						(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	5
					相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	3
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	3
評価点							34	33

総合点	67	総合評価					B
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A 評価	B 評価	C 評価	D 評価	E 評価	
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	



	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	防犯教室の内容に関して、お互いの分野の情報を共有することで、効果的な啓発活動を実施することができた。	市民を特殊詐欺等の被害から守るという目的を共有し、お互いの得意分野を生かした役割分担をして、防犯教室に取り組むことができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	お互いの意見をフィードバックする場を設けることができなかった。情報共有の体制強化に努めたい。	防犯教室を実施するという目標の達成にとどまらず、特殊詐欺等の被害を減らすという目標に向けて、犯罪の発生状況や事業の進捗状況などについて情報を共有しながら進めていきたい。また、取組の経過や成果についても、共に情報発信していきたい。

協働事業

No.	51	事業名	奈良市地球温暖化対策地域協議会									
部名	環境部				課名	環境政策課						
総合計画上の 位置付け	章	第4章	生活環境				展開方向	②	地球温暖化対策の推進			
	基本施策	4-02	環境保全					奈良市地球温暖化対策地域協議会等を通じ、市民、事業者、行政等あらゆる主体が協働し、環境教育、エコバッグの普及等3Rの推進や公共交通機関の利用促進及び省エネを実施できる仕組みづくりなど温室効果ガスの排出量を削減し、地球温暖化対策の推進に取り組みます。				
	施策	4-02-01	環境にやさしい社会の構築									
相手方の名称	市民・NP0・事業者など					協働事業の実施手法	実行委員会・協議会					
実施の時期	通年					事業開始年度	平成21年度					
令和2年度事業費	予算額		628			決算額	628		(単位：千円)			
事業の 概要・目的	市民（個人・団体）、NP0、事業者、学識経験者、行政などが対等な立場で和をもって協議を行い、パートナーシップにより地球温暖化対策等の活動を推進し、環境（エコロジー）も経済（エコノミー）も持続可能な社会をめざす。											
目標指標	指標名		環境行事実施回数									
	単位	回	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3			
			目標値	20	23	25	27	30	30			
			実績値	24	24	18	25	10				
令和2年度 取組内容	新型コロナウイルスの影響により、従来の活動への制限は生じたが、温室効果ガス排出削減に向け、市民・市民団体・事業者等と協働し、対面・オンラインでの市民啓発事業や学校・園への環境出前講座の実施、等の様々な分野で活動を展開した。											
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由										



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 ← できた	4 ← 少しできた	3 → どちらとも言えない	2 → あまりできなかった	1 → できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5					
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	3					
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。			3			
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5				
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	3	4				
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	5				
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	5				
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	2				
評価点							38	39

総合点	77
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価					A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	種々の立場の人間が、共通の目的を持って活動することにより、会員同士のネットワークの構築に寄与し、個々の取り組みにおいても協働ができている。	行政が関わることでしっかりした事務的支援や信頼を得られ、啓発誌の取材や配布、環境イベントでの展示説明、市内の教育機関への出前講座など、市民レベル単独ではできない充実した活動によって、コロナ禍ではあるが、地球温暖化対策への市民の理解浸透が実施できている。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	各人が、関心のある分野に対してのみ活動を進めていく傾向があり、他の分野の活動で手助けが必要な場合に、協力しているメンバーが固定化されつつある。また、運営に主に関わるメンバーが固定化されている。新たなプレイヤーが参加しやすい体制・雰囲気づくりにより協議会の活性化を求めたい。	当協議会の構成に大きな変化がなく、固定されたメンバーでの高齢化は活動の活性低下に傾くので、新たな会員にも参加してもらいやすい環境づくりを求めたい。また、改正温対法やwithコロナによるニューノーマルを踏まえ、テレワークのような【遠隔触れ合い】での協議会活動を期待したい。

協働事業

No.	52	事業名	ＥＣＯキッズ！ならの子ども						
部名	環境部・教育部			課名	環境政策課・学校教育課				
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境			展開方向	① 環境保全行動の推進		
	基本施策	4-02	環境保全				子どもから大人までそれぞれの発達段階に応じた環境教育を推進することにより、一人ひとりが自発的に気付き、学び、行動する心を育成します。		
	施策	4-02-01	環境にやさしい社会の構築						
相手方の名称	市民・市民団体等				協働事業の実施手法	事業協力			
実施の時期	通年				事業開始年度	平成25年度			
令和2年度事業費	予算額		1,192		決算額	0		(単位：千円)	
事業の概要・目的	次世代を担う子ども達に環境問題や省エネ・節電などライフスタイルに対する気づきを与え、環境保全を推進する人材を育成するため、市立全小学校3年生を対象に、地球温暖化防止や省エネなどの環境に関する出前授業を行う。								
目標指標	指標名		夏・冬休みに家庭で取り組むエコチャレンジを実施した割合						
	単位	%	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	100	100	100	100	100	100
			実績値	92	89	80	92	95	
令和2年度取組内容	新型コロナウイルス感染症対策に伴う学校の臨時休業などにより、令和2年度の実施は見送り、小学校に対して環境出前講座の周知を進めるとともに、令和3年度から事業が再開できるよう実施計画を検討した。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価	
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5	
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5	
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5		
自立化	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5						
	できた	少しで できた	ど ちらとも 言えない	あ まりで きなかつ た	で きなかつ た		(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	5	
(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。								5	
						目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
						相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
						公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
						相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5
						期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	2
						評価点		41	40

総合点	81
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	教育現場に教員以外の講師を派遣することで、子ども達と地域の人々とのコミュニケーションが生まれるとともに教員への波及効果が期待され、環境保全に対する興味や意識の向上が期待される。	自分たちの身近な問題について、実際に啓発事業を実施している外部講師がリアルな話を交えて講義を行うことにより、児童自身が生活を振り返りながら考えることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度は従来の形での講師派遣ができず、実施先が一部の学校のみという結果となった。コロナ対策を踏まえた実施方法を、協働相手とともに検討する必要がある。	新型コロナウイルス感染症の影響により、当初の事業ではなく別の出前講座の機会を通じて、一部の学校のみでの実施となった。コロナ禍でも実施可能な新しい方法を考える必要がある。

協働事業

No.	53	事業名	アダプトプログラム推進事業「さわやかクリーン奈良」						
部名	市民部		課名	地域づくり推進課					
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境			展開方向	①	環境美化活動の推進	
	基本施策	4-03	生活・環境衛生				アダプトプログラム推進事業を実施し、地域のボランティアによる道路、河川等の公共施設の美化活動を支援します。		
	施策	4-03-01	環境美化の推進						
相手方の名称	自治会・ボランティア団体・事業者等			協働事業の実施手法		事業協力			
実施の時期	通年			事業開始年度		平成20年度			
令和2年度事業費	予算額		3,218		決算額		3,462		(単位：千円)
事業の概要・目的	市民の方々による身近な道路、河川等の公共施設の美化活動を通して地域コミュニティの再生を図る。								
目標指標	指標名		活動団体の増						
	単位	団体	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	64	66	83	85	87	92
令和2年度取組内容			実績値	60	81	92	104	98	
	ホームページやしみんだより、情報誌「りろば」を通して参加団体を募集し、市の支援として、報奨金10,000円、ごみの回収、90Lのごみ袋の提供、ボランティア活動保険への加入を行う。また、報奨金を希望しない団体は、ごみ袋45L及び90Lの支給、ごみの回収、ボランティア活動保険への加入を行う。活動に参加する等して集めた団体の声を基に、手続き方法の改善や活動の推進・拡大を図っていく。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	4
5 ← できた	4 ←	3 →	2 →	1 →	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	4
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
					自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	4
					相互補充	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	4
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	3
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	3
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
					評価点		40	35

総合点	75
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	市が活動支援を行い、地域の有志の団体が美化活動を行うことで、「自分たちのまちを自分たちの手できれいにしよう」という意識の広がりや地域でのつながりが生まれた。またコロナ禍での活動方法等を発信することで、安全に活動してもらうことができた。	地域での清掃を行うことにより、街が綺麗になることに加え、地域の親睦が深まった。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	各団体において清掃方法等が違うことから、一元的にすべての団体のニーズに沿うことが難しい。できるだけ団体の希望に沿える柔軟に対応していくことが必要。	メンバーの高齢化により活動の継続が困難となっている。活動においての相談などができるよう団体相互の交流の場を設けてほしい。

協働事業

No.	54	事業名	佐保川清掃							
部名	環境部		課名	まち美化推進課						
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向	①	環境美化活動の推進			
	基本施策	4-03	生活・環境衛生			アダプトプログラム推進事業を実施し、地域のボランティアによる道路、河川等の公共施設の美化活動を支援します。				
	施策	4-03-01	環境美化の推進							
相手方の名称	佐保川清掃対策委員会			協働事業の実施手法	事業協力					
実施の時期	春			事業開始年度	昭和34年度					
令和2年度事業費	予算額	0		決算額	0		(単位：千円)			
事業の概要・目的	地域住民の方々のボランティア活動により佐保川の美化活動を行う。									
目標指標	指標名	美化活動への参加人数								
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
			目標値	1,500	1,500	1,500	1,550	1,550	1,550	
			実績値	1,200	1,200	1,200	1,200	0		
令和2年度取組内容	新型コロナウイルス感染防止対策のため、実施を見合わせるようになった。									
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由								



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		
5 ← できた	4 ← 少しで きた	3 → どち らとも 言え ない	2 → あま りで きな かつ た	1 → で き な か つ た	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	—	—
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	—	—
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	—	—				
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	—	—				
			(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		—	—		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	—	—				
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	—	—				
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	—	—				
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	—	—				
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	—	—				
評価点							0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

協働事業

No.	55	事業名	人と動物がともに暮らせるまちづくり事業									
部名	健康医療部				課名	保健衛生課						
総合計画上の 位置付け	章	第4章	生活環境				展開方向	②	人と動物がともに暮らせるまちづくり事業			
	基本施策	4-03	生活・環境					狂犬病に対する認識や動物愛護の意識の高揚に努めるとともに動物の正しい飼い方を啓発し、人と動物が良きパートナーとして共に暮らせるまちづくりを推進する				
	施策	4-03-02	生活・環境環境衛生の向上と増進									
相手方の名称		自治会				協働事業の実施手法			事業協力			
実施の時期		通年				事業開始年度			平成15年度			
令和2年度事業費		予算額		39		決算額			39		(単位：千円)	
事業の 概要・目的		自治会を通じて動物の適切な飼い方に関するポスターを配布し掲示してもらうとともに、地域住民との意見交換を行い、良い意見を反映させていくことで、飼い主のマナー啓発に努める										
目標指標	指標名		ポスター配布枚数									
	単位	枚	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3			
			目標値	800	800	800	800	800	800			
			実績値	451	575	491	303	323				
令和2年度 取組内容		動物の飼い方に関する苦情・相談を集約・整理しながら、市の各自治会と連携し、動物の適切な飼い方についてのポスターを配布する。そのうえで、動物に関する迷惑行為防止の取り組みについて意見交換を行い、有効な取り組みについては市全体に発信するなど、人と動物がともに暮らせるまちづくりを推進する取り組みを自治会と協議で構築する。										
今後の方針		継続	拡大、縮小、廃止の理由									



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	4
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	4
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	5	
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	4
					相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	3
					評価点		41	35

総合点	76
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	市と自治会がともに動物に関わる迷惑行為防止等の取組を行うことにより、動物の適正飼養に対する意識を高めるとともに、飼い主に対しマナー啓発を行うことで、人と動物がともに暮らせるまちづくりの推進を図ることができた。	継続してポスターを掲示することにより動物に関する迷惑行為に対して一定程度の抑止効果があったと思われる。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	動物に対する意識の隔たりが大きく、合意の形成に時間を要すると感じる。ポスターを契機として地域住民への啓発を根気よく継続することを望む。	飼い主のマナー啓発には限りがあり、迷惑行為をする本人に直接注意できる訳ではないため迷惑行為を根絶することは難しい。

協働事業

No.	56	事業名	ならクリーンフェスタ									
部名	環境部				課名	廃棄物対策課						
総合計画上の 位置付け	章	第4章	生活環境			展開方向	①	ごみ減量・リサイクルの推進				
	基本施策	4-04	廃棄物処理				ごみの2R施策に重点を置いた啓発活動として、各種市民団体と連携・協議した広報及び啓発活動を展開し、家庭系ごみの減量を図ります。また、ごみの排出事業者等に対し、関係法令に則った指導・啓発を強化し、不適正なごみの搬入を抑制することにより、事業系ごみの減量を図ります。					
	施策	4-04-01	一般廃棄物の処理									
相手方の名称	奈良市ごみ懇談会					協働事業の実施手法	共催					
実施の時期	年1回					事業開始年度	平成6年度					
令和2年度事業費	予算額		120			決算額	0		(単位：千円)			
事業の 概要・目的	全国的に制定されている3R(スリーアール)推進月間などの時期に、本市の取組として廃棄物に関する問題意識の高揚とごみ減量・リサイクル促進の必要性を訴えるため、啓発活動の一環として開催する。											
目標指標	指標名		イベントへの参加者数の増加									
	単位	人／回	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3			
			目標値	6,000人/2回	6,000人/2回	6,000人/2回	3,000人/1回	3,000人/1回	3,000人/1回			
			実績値	3,000人/1回	3,000人/1回	6,000人/2回	3,000人/1回	0				
令和2年度 取組内容	新型コロナウイルスの影響で事業中止											
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由										



令和２年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
5 4 3 2 1 ←←→→ できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。					—	—
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。					—	—
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。					—	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。					—	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。					—	—
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。					—	—
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。					—	—
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。					—	—
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。					—	—	
評価点							0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

協働事業

No.	57	事業名	ごみ減量キャラバン									
部名	環境部			課名	廃棄物対策課							
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境			展開方向	①	ごみ減量・リサイクルの推進				
	基本施策	4-04	廃棄物処理				ごみの2R施策に重点を置いた啓発活動として、各種市民団体と連携・協議した広報及び啓発活動を展開し、家庭系ごみの減量を図ります。また、ごみの排出事業者等に対し、関係法令に則った指導・啓発を強化し、不適正なごみの搬入を抑制することにより、事業系ごみの減量を図ります。					
	施策	4-04-01	一般廃棄物の処理									
相手方の名称	ごみ懇談会等				協働事業の実施手法		事業協力					
実施の時期	通年				事業開始年度		平成24年度					
令和2年度事業費	予算額		134		決算額		10	(単位：千円)				
事業の概要・目的	啓発活動により、より多くの市民に、廃棄物の課題を認識していただき、ごみの減量及び3Rの促進に取り組んでいただく。											
目標指標	指標名		キャラバンの参加者数の増加									
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3			
			目標値	600	600	600	600	600	600			
			実績値	396	570	292	803	276				
令和2年度取組内容	奈良市内の公民館や自治会を回り、ごみの分別・減量や3Rの実践活動の広報する講演会を開催するとともに、小学校やこども園向けの内容も作成し、要望を受けて出前講座を実施したが、新型コロナウイルスの影響により、開催回数は前年度を大きく下回った。											
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由										



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5 ← できた	4 ←	3 →	2 →	1 できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		3					
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	4					
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。			2			
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5				
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5				
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4				
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5				
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	3				
評価点							42	37

総合点	79
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	ごみ懇談会のメンバーが講師をすることで、市民の立場(同じ目線)でごみ減量手法やごみ分別について話していただけた。また市民の持つ問題や不安を知ることができ、生の声やアンケートを基に市の具体的な施策の参考にできた。	令和2年度はコロナの影響でごみ懇談会の会合も一度だけでキャラバンも数回しか開催できなかった。思うように市民に奈良市のごみのことや情報を伝えることができなかった。段取りなどもすべて担当課にお任せになった。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	小学校での開催時は時間的な制約から、ほとんど行政職員のみで対応しているため、公民館や自治会での開催を促進すべく周知・広報及び開催手法を見直し、協働の機会の増加を図る必要がある。	市の担当が若い職員さんが参加するようになり市からの伝え方なども若い視点での元気の良さなどが、特に学校の児童相手の時には人気だった。伝え方も老若あっていいと思った。

協働事業

No.	58	事業名	陶磁器製食器類リユース・リサイクル事業								
部名	環境部		課名	廃棄物対策課							
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向	①	ごみ減量・リサイクルの促進				
	基本施策	4-04	廃棄物処理			ごみの2R施策に重点を置いた啓発活動として、各種市民団体等と連携・協働した広報及び啓発活動を展開し、家庭系ごみの減量を図ります。また、ごみの排出事業者等に対し、関係法令に則った指導・啓発を強化し、不適正なごみの搬入を抑制することにより、事業系ごみの減量を図ります。					
	施策	4-04-01	一般廃棄物の処理								
相手方の名称			関西ワンディッシュエイド協会		協働事業の実施手法		委託				
実施の時期			通年		事業開始年度		平成27年度				
令和2年度事業費			予算額		3,173		決算額		250		(単位：千円)
事業の概要・目的			定期回収拠点（コープおしくま、コープ七条、はぐくみセンター）や奈良市の主催イベント等にて、家庭で不用になった陶磁器製食器類を持ち込んでいただき回収するとともに、持ち帰りたい食器があれば配布する「もったいない陶器市」を開催する。本事業を通じて、ごみの2R（発生抑制、再使用）を促進し、ごみに対する意識の高揚を図る。								
目標指標	指標名		陶磁器製食器のリユース率								
	単位	%	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3		
			目標値	58	59	62	63	64	65		
			実績値	61	61	61	65	60			
令和2年度取組内容			今年度はコープおしくま、コープ七条、はぐくみセンターの3箇所を拠点とし、各拠点で月1回ずつ定期開催を行う。今年度の奈良市役所での開催に関しては奈良市役所本庁舎が耐震工事中であるため行わない。なお、各場所での開催状況を踏まえ、より効果的な開催場所への変更・拡大を適宜検討する。								
今後の方針			縮小	拡大、縮小、廃止の理由		新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮した取り組みを目指す					



令和２年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
5 4 3 2 1 ←←→→ できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。					5	5
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。					5	5
	自主性尊重	（行政） 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。					5	
		（協働相手） 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。						
	自立化	（行政） 協働相手の自立化を進められましたか。					4	
		（協働相手） 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。						
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。					5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。					4	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。					5	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。					5	5
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。					5	5	
評価点						43	45	

総合点	88
行政・協働相手の評価点を合計して算出 （※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	本年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により2回のみ開催となったが、感染拡大防止を考慮した今後の取り組みについて、意見交換を行い、今後の方針を確認した。	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和2年度は2回のみ開催となった。但し、感染拡大防止を考慮した今後の取り組みについて行政と意見交換を行い、今後の方針を確認する事ができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	新型コロナウイルス感染拡大の影響を抑制しながら事業を実施できるよう、今後とも情報共有しながら事業の内容を模索したい。	新型コロナウイルス感染拡大の影響を抑制しながら事業を実施できるよう、行政と情報共有しながら今後の対応を模索して行きたい。

協働事業

No.	59	事業名	なら・まちかど景観発掘隊						
部名	都市整備部			課名	都市計画課				
総合計画上の 位置付け	章	5章	都市基盤			展開方向	④	協働による景観まちづくり	
	基本施策	5-02	景観				地域の貴重な景観資源を発掘し、それを市民一人ひとりが活用できる景観施策を推進します。		
	施策	1-02-01	奈良らしい景観の形成						
相手方の名称	自治会・ボランティア団体				協働事業の実施手法		事業協力		
実施の時期	通年				事業開始年度		平成22年度		
令和2年度事業費	予算額		101		決算額		0	(単位：千円)	
事業の 概要・目的	自治会やボランティア団体と市との協働により、なら・まちかど景観発掘隊と題し一般の方々を募り、街歩き計画を立て、街歩きを通じて私たちの住む街角にある、ちょっとした素晴らしい景観スポットを発掘する。これを景観資源として蓄積し、観光や街の活性化につなげていく。								
目標指標	指標名		活動団体数の増						
	単位	団体	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	2	2	3	2	2	2
			実績値	1	1	1	1	1	
令和2年度 取組内容	地域団体の方々と市との協働により、なら・まちかど景観発掘隊と題し一般の方々を募集し、街歩きを行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、不要不急の外出を控えたことから活動を自粛致しました。そのためボランティア団体と今後に向けて、新型コロナウイルス感染状況を鑑み、街歩きを通じて新たな景観スポットの発掘やワークショップ開催に向けての事前打合せを行った。								
今後の方針	縮小	拡大、縮小、廃止の理由		人員不足により継続は困難					



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	3	3
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	3	3
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	3	
					自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	3	
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	3	3
					相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	3	3
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	3
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	3
					評価点		27	24

総合点	51
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価					C
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	新型コロナウイルス感染症予防対策のため、活動を自粛致しましたが、今後の景観まちづくりに向けての事前打合せを通じて、奈良らしい景観を普段から意識して頂くきっかけづくりが出来ました。	新型コロナウイルス感染症予防対策のため、不要不急の外出を控えたことから活動を自粛致しました。今後も市との協働により、奈良の素晴らしいと思える景観について意識を高めてまいります。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	協働で活動しているボランティア団体は、高齢の方が多数を占めている。若手の参加者を増やすことが求められる。	今後も市と協力して景観資源の発掘などの活動を継続したいと思う。また、高齢化が進んでいるため若手の参加者を増やしていきたい。

協働事業

No.	60	事業名	違反広告物を出さない街づくり推進団体									
部名	都市整備部				課名	都市計画課						
総合計画上の 位置付け	章	5章	都市基盤				展開方向	④	協働による景観まちづくり			
	基本施策	5-02	景観					景観まちづくり市民組織の結成、育成を支援するとともに、各組織のネットワーク化を図ります。				
	施策	1-02-01	奈良らしい景観の形成									
相手方の名称	自治会・2名以上のボランティア団体				協働事業の実施手法			事業協力				
実施の時期	通年				事業開始年度			平成16年度				
令和2年度事業費	予算額		222		決算額			57	(単位：千円)			
事業の 概要・目的	古都奈良にふさわしい景観となるよう、道路などに掲出された違法な簡易広告物を市民の方々に除却していただき、その活動を通じて地域の景観を守る意識を高めていただく。											
目標指標	指標名		活動団体数の増加									
	単位	団体	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3			
			目標値	38	46	54	58	60	62			
			実績値	43	47	49	49	49				
令和2年度 取組内容	しみんだよりや市ホームページによる広報に加え、関係団体にも積極的に働きかけ、活動団体数の増加を図る。											
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由										



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	4
5 ← できた	4 ←	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4			
	3 →		自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	4			
	2 →	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4				
	1 できなかった		目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4		
		相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4			
		公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4			
		相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4			
		期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4			
		評価点			36	36		

総合点	72
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	違反広告物を出さない街づくり推進団体との協働によって、地域の景観を守る意識が高められた。	活動当初と比べて簡易広告物の除去件数が減少していることは、活動の成果であり、広告の規制が浸透してきている。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	より多くの市民の方々に景観の意識を高めてもらうために、活動団体の増加を目指す。	除去件数が減少しているので、今後は活動の意義をPRすることが課題である。

協働事業

No.	61	事業名	グリーンサポート制度						
部名	市民部			課名	地域づくり推進課				
総合計画上の 位置付け	章	第5章	都市基盤			展開方向	①	公園・緑地の管理や運営の多様化	
	基本施策	5-06	公園・緑地				公園ボランティア制度やグリーンサポート制度などを活用し、市民等との協働による公園・緑地の管理運営を推進します。		
	施策	5-06-01	公園・緑地の整備						
相手方の名称	自治会等地域の団体				協働事業の実施手法	事業協力			
実施の時期	通年				事業開始年度	平成20年度			
令和2年度事業費	予算額		13,736		決算額	13,410		(単位：千円)	
事業の 概要・目的	市民が公園を快適かつ安全に利用できるようにするとともに、市民の自主的な活動の推進を図る。								
目標指標	指標名		グリーンサポート制度による公園管理率						
	単位	%	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	32	34	36	38	36	36
			実績値	28	31	33	34	35	
令和2年度 取組内容	引き続き、情報紙「りろば」の発行やしみんだより、ホームページの広報活動等により市民への周知に努め、団体数の増加を図る。また、活動に参加する等して集めた団体の声を基に、手続き方法の改善や公園維持管理活動の推進・拡大を図っていく。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	3
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	3
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	3
自立化	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5					
	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	4		4				
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	←	←	→		→	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4
				相互補完		お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	4
				公開		協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	2
				相互変革		協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
				期限設定		事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	5
				評価点		37	33	

総合点	70
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	グリーンサポート制度に登録する公園は168公園138団体となり、市民等との協働により公園の美化が保たれ、適正に公園を管理できた。登録団体の増加に繋がり、地域の親睦も深まっている。	地域がきれいになり、公園の利用者が増えたように感じる。町内において公園は地域親睦の場として大切であり、交流の場として有効活用されている。グリーンサポートの活動は交流の場を維持するために重要である。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	毎年の更新において例年、紙媒体で申請を受け付けているが、オンラインでの申請もできるように検討している。	活動予算の増加を希望。公園緑地課との連携を行い窓口の一本化を行って欲しい。

協働事業

No.	62	事業名	なら燈花会開催事業						
部名	観光経済部			課名	観光戦略課				
総合計画上の 位置付け	章	第6章	経済			展開方向	① 観光資源・施設の整備・充実		
	基本施策	6-01	観光				—		
	施策	6-01-01	観光力の強化						
相手方の名称	特定非営利活動法人 なら燈花会の会			協働事業の実施手法		補助・助成			
実施の時期	8月5日～14日			事業開始年度		平成11年度			
令和2年度事業費	予算額		10,000		決算額		10,000		(単位：千円)
事業の 概要・目的	観光閑散期の奈良の夏に多くの観光客を呼び込むため、奈良公園内の7カ所の会場で毎夜約300人を超えるボランティアの人力によって20,000個のろうそくを灯し、歴史的建造物等のライトアップを含めた夏の祭典として、なら燈花会を開催する。								
目標指標	指標名		期間中の来訪者						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
			実績値	911,000	975,000	951,000	945,000	0	
令和2年度 取組内容	しみんだより・観光パンフレット・ホームページ、公共施設へのチラシ・ポスター設置等を通じ、ボランティア募集を積極的に展開する。また、「なら燈花会支援会議」に参画し、関係団体と一体になったPR活動に努める。(令和2年度はオンライン配信での実施)								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和2年度 事業評価		協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
		対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5 ← できた	4 ←	3 →	2 →	1 →	できなかった
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。		5	5
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。		5	5
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。			
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。		4	4
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。			
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。		5	5
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。		5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。		3	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。		4	4
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。		4	5	
評価点				40	41

総合点	81
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	経費的、内容的に行政だけでは賄いきれない規模の事業だが、「特定非営利活動法人 なら燈花会の会」による企画運営と、多くのボランティアの協力によって夏の奈良の風物詩として認知されている。また、ボランティアをはじめとする多くのスタッフが奈良を訪れることにつながり、奈良を愛する心を育むことができた。	特定非営利活動法人 なら燈花会の会で企画運営するが、行政や社寺の協力がなければ到底事業を継続していくことはできない。コロナ禍においても行政の協力のもと夏の奈良の風物詩を継続することができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	今回は規模縮小のため、影響が見受けられなかったが、期間を通じて一定数のボランティアを確保することが困難になりつつあり、また役員の後継者不足も見受けられる。	会員の高齢化とボランティアの不足、また役員の後継者不足は常に課題である。

協働事業

No.	63	事業名	ガイド付きツアー						
部名	観光経済部			課名	観光戦略課				
総合計画上の 位置付け	章	第6章	経済			展開方向	② 観光受入体制の充実		
	基本施策	6-01	観光				着地型観光（目的地である着地側で企画する観光）の内容の充実と、広報の強化に努めます。		
	施策	6-01-01	観光力の強化						
相手方の名称	なら・観光ボランティアの会				協働事業の実施手法	事業協力			
実施の時期	7月・8月・12月・1月を除く通年				事業開始年度	平成22年度			
令和2年度事業費	予算額		200		決算額	200		(単位：千円)	
事業の 概要・目的	観光ボランティアガイドの解説のもと、観光客の皆様へ歴史の残る奈良を歩いて、学び、楽しんでもらう。								
目標指標	指標名		ガイドツアー参加者（集客）の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200
			実績値	638	601	897	942	124	
令和2年度 取組内容	観光ボランティアガイドの解説のもと、観光客の皆様へ歴史の残る奈良を歩いて、学び、楽しんでもらう。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
できた	少しで できた	ど ちらとも 言えない	あ まりで きなかつ た	で きな かつ た	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
					相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	5
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
評価点							41	43

総合点		84	→	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）				A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
				90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	
行政の意見			協働相手の意見						
協働によって得られた効果	利用した観光客からの評価は高く、満足していただいている。また、協働相手と密に連絡をとることによって、利用者からの感想が聞ける。			行政との情報交換を進めながら、より魅力的なコース設定やテーマ設定を行った結果、お客様から高い評価を得ることが出来、また参加したいという声を沢山頂いている。					
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	コロナの影響により、多くのコースで催行中止となったが、利用者からの評価は高く、コース内容に変化を持たせることにより、さらなる魅力的なコースの造成を期待する。			全てのガイド付きツアーでコース変更を行ったが、特に秋のツアーでは新規ルート設定に加えツアーのタイトルも変えることで、お客様に新規性のアピールが出来た。今後も更なる情報交換を進めより魅力的なコースやテーマ設定を行っていきたい。					

協働事業

No.	64	事業名	しあわせ回廊～なら瑠璃絵～開催事業						
部名	観光経済部			課名	観光戦略課				
総合計画上の 位置付け	章	第6章	経済			展開方向	① 観光資源・施設の整備・充実		
	基本施策	6-01	観光				オフシーズンである冬の時期に「珠光茶会」や「しあわせ回廊なら瑠璃絵」を開催し、1年を通じて観光客が訪れる観光資源を育てます。		
	施策	6-01-01	観光力の強化						
相手方の名称	なら瑠璃絵実行委員会				協働事業の実施手法		補助・助成		
実施の時期	2月8日～2月14日				事業開始年度		平成21年度		
令和2年度事業費	予算額		8,000		決算額		6,628		(単位：千円)
事業の 概要・目的	春日大社本殿、東大寺大仏殿、興福寺東金堂の夜間拝観の実施や、奈良国立博物館の夜間開館、三社寺をつなぐ奈良公園内におけるLEDライト等によるあかりの演出などを行う。								
目標指標	指標名		期間中の来訪者						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000
			実績値	386,000	369,000	412,000	315,000	13,500	
令和2年度 取組内容	しみんだより・観光パンフレット・ホームページ等を通じ、PRを積極的に展開する。また、「なら瑠璃絵推進委員会」に参画し、関係団体と一体になったPR活動に努める。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和2年度 事業評価		協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価			
		対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5			
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	3	4
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
	←	←	→	→	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	3	
						目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5
できた	少し できた	どちらとも 言えない	あまり できなかった	でき なかつた	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	5
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	4
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	3
評価点							35	35

総合点	70
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	「なら瑠璃絵実行委員会」による企画運営と、多くのボランティアの協力によって経費的、内容的に行政だけでは賅いきれない規模の事業の実施が可能となった。	コロナ禍でなら瑠璃絵実施において独自の感染症対策の策定を行うにあたり、適切な公的機関情報を共有いただいたき、助言をいただきました。なら瑠璃絵実行委員会、関係者全員が徹底して策定した取組みを行い、またご来場のお客さまへよい形でお願いの周知ができました。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	冬季イベントということもあり、当日のボランティアを確保することが困難。行政に頼るのではなく、役割を明確化し、なお一層の自立化が必要	PRに関して、紙媒体からデジタルへの流れにうつくりかわるなか、デジタルサイネージやインターネットを活用し、冬の奈良の魅力をお伝えできればと考えます。

協働事業

No.	65	事業名	パサラ祭り						
部名	観光経済部		課名	観光戦略課					
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		展開方向	①	観光資源・施設の整備・充実		
	基本施策	6-01	観光						
	施策	6-01-01	観光力の強化						
相手方の名称	特定非営利活動法人 パサラ衆			協働事業の実施手法	補助・助成				
実施の時期	8月末			事業開始年度	平成10年度				
令和2年度事業費	予算額	1,500		決算額	0		(単位：千円)		
事業の概要・目的	「パサラ祭り」は市民参加型の祭りで、それぞれ工夫を凝らしたコスチュームを着たダンスチームが各会場を踊りながらパレードを行うものであり、奈良の夏の顔の一つとして実施する。								
目標指標	指標名	期間中の来訪者数の増							
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	80,000	80,000	80,000	80,000	80,000	80,000
実績値	27,000	30,000	32,700	34,000	0				
令和2年度取組内容	新型コロナウイルス感染症拡大のための縮小開催のため、協業事業に至らず。(無観客、パンフレット作成、誘客活動を実施せず)								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和2年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目				行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。				
54321 ←←→→ できた少しできたどちらとも言えないあまりできなかったできなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。			—	—
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。			—	—
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。			—	
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。			—	—
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。			—	
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。			—	—
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。			—	—
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。			—	—
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。			—	—
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。			—	—	
評価点					0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

協働事業

No.	66	事業名	月ヶ瀬梅林周遊道路整備									
部名	建設部			課名	道路建設課							
総合計画上の 位置付け	章	第6章	経済			展開方向	①	観光資源・施設の整備・充実				
	基本施策	6-01	観光				梅林周遊道路の整備を行い、観光ネットワークのひとつとしての環境整備を図ります。					
	施策	6-01-01	観光力の強化									
相手方の名称			梅林周遊道路改修委員会			協働事業の実施手法		事業協力				
実施の時期			通年			事業開始年度		平成17年度				
令和2年度事業費			予算額		60,000			決算額		90,478 (単位：千円)		
事業の 概要・目的			地元自治会選出の代表メンバーとして設置された「梅林周遊道路改修委員会」と調整及び協議を図りながら、名勝「月ヶ瀬梅林」を周遊する道路を整備し、地域住民の利便性を向上させるとともに、観光客の安全と地域観光の活性化を図る。									
目標指標	指標名		道路の整備延長 L=1280m									
	単位	m	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3			
			目標値	100	100	100	100	106				
			実績値	88	0	220	160	57				
令和2年度 取組内容			残区間57m全ての用地取得手続き及び工事を行い整備を完了した。									
今後の方針			完了	拡大、縮小、廃止の理由								



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	5
5 ← できた	4 ←	3 →	2 →	1 →	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	5
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
						(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		
					自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	3	
						(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
					相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	5
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
評価点							39	42

総合点	81
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価					A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	委員会が事業に係る関係者との調整を行い、事業推進に貢献された。	連絡調整等が充分行われ、スムーズに工事が完了した。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	各関係者との協議事項について、委員会を通すことで方向性を見出すには効率がよいが、詳細の調整にかえて時間を要することもある。	工事施工法等について、もう少し柔軟な対応をお願いしたい。 (計画値にこだわらずに現場に合うよう調整等を行う)

協働事業

No.	67	事業名	転害門前観光駐車場の運営									
部名	観光経済部				課名	奈良町にぎわい課						
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済				展開方向	①	観光資源・施設の整備・充実			
	基本施策	6-01	観光					歴史の道を中心とした観光ルート沿いや、観光スポットでのトイレや案内看板等の環境整備を図ります。				
	施策	6-01-01	観光力の強化									
相手方の名称	ミディ総合管理株式会社					協働事業の実施手法		指定管理				
実施の時期	通年					事業開始年度		平成18年度（指定管理者制度導入年度）				
令和2年度事業費	予算額		2,974			決算額		2,974		(単位：千円)		
事業の概要・目的	観光客及び市民の駐車場の便宜を図るために駐車場を設置し、指定管理者制度にて運営管理を行う。											
目標指標	指標名		駐車利用台数の増									
	単位	台	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3			
			目標値	5,400	5,500	6,724	6,900	7,000	4,500			
令和2年度取組内容			実績値	5,970	6,625	7,297	6,941	4,029				
	月報の報告時など指定管理者と定期的に情報共有を行うとともに、たびたび現地への訪問も行う。施設の安全性、利便性の向上及び利用促進並びに経費節減に努め、利用者に喜んでいただける駐車場にするための管理運営を行う。											
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由										



令和2年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。						4	4
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 できた 少しできた どちらとも言えない できなかった	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。						5	4
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。						5	4
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。							
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。						5	5
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。							
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。						4	4
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。						4	4
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。						3	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。						4	4
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。						4	4	4
	評価点						38	36	

総合点	74
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価					B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	駐車場運営の豊富なノウハウを活かし、利用者の利便を図ることができた。 また、経費面でも指定管理料の範囲内で効率的な運営を行った。	車両事故等において、現場対応をするとともに奈良市へ報告を速やかに行い連携が図れたと思われる。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	コロナ禍で観光客の利用が減少しているため、安定した収入が見込める定期券利用者の増加につながるような取り組みを期待したい。 また、駐車場運営において安全の確保は最重要課題であるため、引き続き取り組みを行ってほしい。	定期ご利用者様に、やむを得ず駐車場を閉鎖する際、ご不便を掛けている。

協働事業

No.	68	事業名	奈良市ならまち格子の家						
部名	観光経済部			課名	奈良町にぎわい課				
総合計画上の 位置付け	章	第6章	経済			展開方向	①	観光資源・施設の整備・充実	
	基本施策	6-01	観光				伝統芸能や工芸など体感・体験できる体制を整えます。		
	施策	6-01-01	観光力の強化						
相手方の名称	ならまち格子の家指定管理者コンソーシアム				協働事業の実施手法		指定管理		
実施の時期	通年				事業開始年度		平成18年度（指定管理者制度導入年度）		
令和2年度事業費	予算額		4,208		決算額		4,204		（単位：千円）
事業の 概要・目的	ならまちの伝統的な町家を再現し、観光客及び市民の観覧と利便に供するとともに、町並み保全に資するために格子の家を運営する。								
目標指標	指標名		入館者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	100,000	105,000	100,000	115,000	120,000	36,500
			実績値	100,390	95,383	85,152	77,933	33,093	
令和2年度 取組内容	指定管理者と定期的に情報共有を行うことで、より良い施設運営を行う。また、奈良市から積極的に観光情報を提供し、地元の方と、地域に根差したより良い観光案内を行うとともに、指定管理者による自主事業の充実を図る。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和2年度 事業評価		協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
		対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	3	3
5 ← できた	4 ← 少しできた	3 → どちらとも言えない	2 → あまりできなかった	1 → できなかった	
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	3	3	
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	3		
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	3		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	3	3	
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	3	3	
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3	
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	3	
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	3	
			評価点	27	27

総合点	54
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価					C
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	ならまちを訪れる観光客に、普段中になかなか入ることができない伝統的な町家に触れてもらい、その魅力を伝えることができた。	なし
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	今後のより良い施設運営のために、目的や今後の展望、課題などを共有していく必要がある。 コロナ禍の中ではあるが、より良い施設運営のために、課題や目的、今後の展望などを十分に共有できるように情報交換等を行っていききたい。	なし

協働事業

No.	69	事業名	奈良町からくりおもちゃ館						
部名	観光経済部			課名	奈良町にぎわい課				
総合計画上の 位置付け	章	第6章	経済			展開方向	①	観光資源・施設の整備・充実	
	基本施策	6-01	観光				伝統芸能や工芸など体感・体験できる体制を整えます。		
	施策	6-01-01	観光力の強化						
相手方の名称	特定非営利活動法人からくりおもちゃ塾奈良町				協働事業の実施手法	指定管理			
実施の時期	通年				事業開始年度	平成24年度			
令和2年度事業費	予算額		7,085		決算額	7,063		(単位：千円)	
事業の 概要・目的	明治初期の雰囲気が残る町家の空間のなかで、からくりおもちゃを介して、訪れていただいたお年寄りや子どもたち、観光客などの世代間交流や地域間交流の場として活用することにより、ならまちの活性化及び奈良市の観光振興の拠点とするために奈良町からくりおもちゃ館を運営する。								
目標指標	指標名		入館者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	52,000	52,500	50,000	51,000	52,000	16,500
			実績値	46,227	40,972	37,625	32,767	14,993	
令和2年度 取組内容	地元の方と、地域に根差したより良い観光案内を行うとともに、指定管理者による自主事業の充実を図る。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	4
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	3
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	4	
できた 少しできた どちらとも言えない できなかった	←	←	→	→	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	3
					相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	3
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	2
					評価点			

総合点	64
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価					B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	からくりおもちゃに精通した指定管理者が運営することで、幅広い世代の人々からくりおもちゃを実際に作ったり遊んだりといった体験を通してその魅力を伝えることができた。	指定管理の基本協定にうたわれていることが、NP0のスタッフに浸透しており、行政との協働ならではの成果が表れていると思います。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	今後もからくりおもちゃを通して地域の人々や観光客の世代を超えた交流の場づくりを期待したい。コロナ禍の施設運営には従来とは異なる課題に直面することも多くなると思うが、協働して進めていきたい。	協働への認識をお互いにさらに深めたいと思います。

協働事業

No.	70	事業名	旧鍋屋交番きたまち案内所							
部名	観光経済部			課名	奈良町にぎわい課					
総合計画上の 位置付け	章	第6章	経済		展開方向	①	観光資源・施設の整備・充実			
	基本施策	6-01	観光			歴史の道を中心とした観光ルート沿いや、観光スポットでのトイレや案内看板等の環境整備を図ります。				
	施策	6-01-01	観光力の強化							
相手方の名称		鍋屋連絡所の保存・活用と“奈良きたまち”のまちづくりを考える会		協働事業の実施手法			委託			
実施の時期		通年		事業開始年度			平成24年度			
令和2年度事業費		予算額		197			決算額		159（単位：千円）	
事業の概要・目的		奈良町のきたまち地域を訪れる観光客の利便を図るとともに、地域の活性化による観光振興に寄与することを目的として、まちかど観光案内所を設置する。								
目標指標	指標名		来館者数の増							
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
			目標値	10,000	10,500	6,000	6,500	7,000	1,900	
			実績値	5,999	4,716	4,814	4,388	1,713		
令和2年度取組内容		案内所の運営にあたっては、コロナ禍の困難な状況の対応を含めて委託先と適宜情報交換や協議の場を設けながら実施した。								
今後の方針		継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和２年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	5
←	←	→	→	できた 少 し で き た ど ち ら と も 言 え な い あ ま り で き な か っ た で き な か っ た	自主性尊重	（行政） 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
						（協働相手） 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		
					自立化	（行政） 協働相手の自立化を進められましたか。	5	
						（協働相手） 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	5
					相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	5
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	4
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
評価点							40	42

総合点	82	総合評価					A
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	



	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	きたまち地域の案内所として、多くの人々にその魅力を発信し、地域の活性化に寄与することができた。 お互いのコミュニケーションが良く取れていて、うまく運営している。	コロナ禍で活動が困難であったが、案内所の消耗品を購入いただいたりして助けていただいている。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	今後もきたまち地域の案内所として、より多くの人々にその魅力を発信してほしい。 ボランティアによる運営のため、コロナ禍の中ではより一層の情報共有を行う必要がある。	コロナ禍で活動が困難であったが、案内所の閉所、開所やなべかつの活動などについて引き続き連絡を取り合っていきたい。

協働事業

No.	71	事業名	史跡・名勝をめぐるウェルカムサービス～知って奈良とびらガイド～									
部名	観光経済部				課名	観光戦略課						
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済				展開方向	②	観光客受け入れ体制の充実			
	基本施策	6-01	観光					事業者・市民が奈良の歴史・文化を学び、奈良の魅力の理解の下、もてなしの心の醸成により、来訪者への充実したサービスの提供を図ります。				
	施策	6-01-01	観光力の強化									
相手方の名称	なら・観光ボランティアガイドの会				協働事業の実施手法			補助・助成				
実施の時期	通年				事業開始年度			平成25年度				
令和2年度事業費	予算額		100		決算額		100		(単位：千円)			
事業の概要・目的	奈良市へ転入の届け出を行った世帯に、無料でなら・観光ボランティアガイドの会による観光案内を行う。											
目標指標	指標名		期間中の来訪者数の増									
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3			
			目標値	50	50	50	50	50	50			
			実績値	11	10	3	18	7				
令和2年度取組内容	転入届出窓口等で、積極的なPR活動に努める。											
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由										



令和２年度 事業評価		協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価			
		対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	4			
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	4
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	4
					相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	4
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	4
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	4
					評価点		39	37

総合点	76
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	本市で暮らしはじめる方々に、奈良を知っていただき、地域の魅力を掘り起こしていただきながら、これからともに育んでいただくための第一歩として「おもてなしの心」で迎えることができた。	本制度を利用されたお客様は、他の市にはない制度で、奈良を知るうえで大変良かったとの声が寄せられている。今後とも積極的に利用推進について取り組んでいく。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	新型コロナウイルス感染症の影響により、大部分の期間で実施を見合わせていたが、マイクロツーリズムで近隣観光が見直されていることもあり、参加を増加させるため、周知等を引き続き行う必要がある。	今年度は、市役所市民課の窓口にポスター掲示を行い、市のSNSで発信することで、本制度の認知度アップに取り組んだ。今後はマスコミ等との連携を深め、さらに積極的な周知活動に取り組むこととしたい。

協働事業

No.	72	事業名	奈良市きたまち転害門観光案内所						
部名	観光経済部			課名	奈良町にぎわい課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済			展開方向	①	観光資源・施設の整備・充実	
	基本施策	6-01	観光				歴史の道を中心とした観光ルート沿いや、観光スポットでのトイレや案内看板等の環境整備を図ります。		
	施策	6-01-01	観光力の強化						
相手方の名称	転害門前旧銀行跡建物活用協議会			協働事業の実施手法		委託			
実施の時期	通年			事業開始年度		平成25年度			
令和2年度事業費	予算額		1,652		決算額		1,565		(単位：千円)
事業の概要・目的	旧南都銀行手貝支店である奈良市所有の町家を改修し地域の団体と協働して、きたまちの観光客に対する観光案内や、観光資源の発掘及び調査研究、地域活性化の拠点などとして多目的に利用できる観光案内所として運営する。								
目標指標	指標名		来館者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	10,000	10,500	10,000	10,100	10,200	3,350
			実績値	9,353	8,103	7,381	7,433	3,049	
令和2年度取組内容	案内所の運営にあたっては、コロナ禍の困難な状況の対応を含めて委託先と適宜情報交換や協議の場を設けながら実施した。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	5
5 ← できた	4 ←	3 →	2 →	1 →	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	5
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
						(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		
					自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	3	
						(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
					相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	5
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	4
評価点							33	39

総合点	72
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	転害門の横の観光案内所として、訪れた人々にきたまちの魅力を発信することができた。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため休館を余儀なくされたが、単なる観光案内所としてだけでなく、奈良町における市側の思いや計画、今後の取り組みについて意見交換ができ、地域の魅力の発信基地となるよう協働して取り組めた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	以前から人材の確保については大きな課題の一つとして挙がっていたが、コロナ禍でより顕著になっている。	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、観光案内所がクラスターとならないための対策を協働して進め、来館される観光客と従事するボランティアスタッフが安心して過ごせる案内所づくりに取り組む必要がある。

協働事業

No.	73	事業名	奈良町南観光案内所運営管理							
部名	観光経済部			課名	奈良町にぎわい課					
総合計画上の 位置付け	章	第6章	経済			展開方向	①	観光資源・施設の整備・充実		
	基本施策	6-01	観光				歴史の道を中心とした観光ルート沿いや、観光スポットでのトイレや案内看板等の環境整備を図ります。			
	施策	6-01-01	観光力の強化							
相手方の名称	有限会社くるみの木				協働事業の実施手法	委託				
実施の時期	通年				事業開始年度	平成27年度				
令和2年度事業費	予算額		27,818		決算額	27,817		(単位：千円)		
事業の 概要・目的	案内所の運営にあたっては、委託先と適宜情報交換や協議の場を設けながら実施し、奈良町の魅力を国内外に発信しながら、奈良町南観光案内所への誘客を促進する。また、駐車場の運営にあたっては、施設の安全性や利便性の向上に努めながら、案内所と一体的な活用を行う。									
目標指標	指標名		来館者数の増							
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
			目標値	50,000	50,500	51,000	51,500	52,000	15,000	
			実績値	30,522	31,855	24,611	24,422	13,579		
令和2年度 取組内容	案内所の運営にあたっては、委託先と適宜情報交換や協議の場を設けながら実施し、奈良町の魅力を国内外に発信しながら、奈良町南観光案内所への誘客を促進する。また、駐車場の運営にあたっては、施設の安全性や利便性の向上に努めながら、案内所と一体的な活用を行う。									
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由								



令和２年度 事業評価		協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
		対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	5
5 ← できた	4 ← 少しで きた	3 → どち らとも 言え ない	2 → あま りで きな かつ た	1 → で き な か つ た	
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	5	
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5		
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5	
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5	
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	5	
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5	
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5	
	評価点			41	45

総合点	86
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価					A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	指定管理者である有限会社くるみの木が長年培ってきた生活や文化に関する知識を生かした運営を行うことで、訪れた市民や観光客に奈良町南観光案内所ならではの案内ができた。	新型コロナウイルス感染拡大による休館などの対応についても相談に乗っていただき、トラブルを回避することができた。それ以外でも、普段から弊社の特性をご理解いただき、尊重していただいております、安心して事業を遂行することができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	今後も観光案内や自主事業を通して、訪れた市民や観光客に奈良町の生きた魅力を発信してほしい。コロナ禍の困難な状況下でのあるが、情報共有などを行い、よりよい施設運営をすすめたい。	昨年に引き続き、行政との協働施設としての判断や手続きなど、相談に乗っていただき、間違いのないようサポートをお願いしたい。

協働事業

No.	74	事業名	奈良町にぎわいの家運営管理							
部名	観光経済部			課名	奈良町にぎわい課					
総合計画上の 位置付け	章	第6章	経済			展開方向	①	観光資源・施設の整備・充実		
	基本施策	6-01	観光				昔ながらの暮らしや伝統文化が体感・体験できる体制を整えます。			
	施策	6-01-01	観光力の強化							
相手方の名称		奈良町にぎわいの家管理共同体			協働事業の実施手法			委託		
実施の時期		通年			事業開始年度			平成27年度		
令和2年度事業費		予算額		16,700		決算額		16,481（単位：千円）		
事業の 概要・目的		奈良町を訪れる観光客、奈良町に暮らす住民、奈良にゆかりを持つ多くの人々が集う、奈良町に息づく歴史文化の発信拠点、にぎわい創出の拠点とするために奈良町にぎわいの家を運営する。								
目標指標	指標名		来館者数の増							
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
			目標値	100,000	105,000	97,500	98,500	100,000	38,000	
			実績値	96,018	93,247	93,006	89,306	36,954		
令和2年度 取組内容		指定管理者と定期的に情報共有を行うことで、より良い施設運営を行う。また、奈良市から積極的に観光情報を提供し、地元の方と、地域に根差したより良い観光案内を行うとともに、指定管理者による自主事業の充実を図る。								
今後の方針		継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	5
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
←	←	→	→		自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
できた 少しで きた どちらとも 言えない あまりで きなかつ た					自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	5	
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	5
					相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	5
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	5
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	5
						評価点	40	45

総合点	85
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	歴史や文化に親しむことのできる体験講座や、地域と連携したイベントを実施することで、市民や観光客に奈良町を知る機会を提供し、にぎわい創出の拠点の一つとして大きな役割を果たすことができた。	コロナによる大きな環境変化のもとでも、奈良町にぎわい課/奈良市の情報やネットワークを通して、奈良町にぎわいの家の魅力と奈良町的生活文化を、来館者や地域住民、一般市民に発信できた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	今後も奈良町の歴史・文化や伝統を市民や観光客に広く知っていただけるようなイベントの企画・実施を期待したい。コロナ禍の困難な状況強化にあるなかで、互いの得意分野を生かし、協働してより良い施設運営を目指したい。	・当館と、奈良市の観光部局や観光協会とのパイプをつなぐ更なるサポートを期待したい。 ・奈良町の活性化と奈良町家保存のためのアイディアを出し合い、協働して取り組む関係をいっそう盛り上げていきたい。 ・協働に関する考え方や施策/事業等について、行政とともにお互いに研修する場を設けることを検討いただきたい。

協働事業

No.	75	事業名	奈良市京終駅観光案内所									
部名	観光経済部				課名	奈良町にぎわい課						
総合計画上の 位置付け	章	第6章	経済				展開方向	①	観光資源・施設の整備・充実			
	基本施策	6-01	観光					歴史の道を中心とした観光ルート沿いや、観光スポットでのトイレや案内看板等の環境整備を図ります。				
	施策	6-01-01	観光力の強化									
相手方の名称	特定非営利活動法人 京終					協働事業の実施手法		委託				
実施の時期	通年					事業開始年度		平成30年度				
令和2年度事業費	予算額		2,306			決算額		2,299		(単位：千円)		
事業の 概要・目的	「駅機能」に魅力ある空間の演出を施すとともに、集客や、賑わいを創出する「観光案内機能」と「コミュニティ機能」を付加する事により、訪れる人々と、地域に暮らす人々が交わることで、賑わいが創出される拠点としての場作りを目指す。											
目標指標	指標名		来館者数の増									
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3			
			目標値	-	-	500	12,000	12,000	4,300			
			実績値	-	-	489	6,177	3,851				
令和2年度 取組内容	案内所の運営にあたっては、委託先と適宜情報交換や協議の場を設けながら実施し、奈良町の魅力を国内外に発信するとともに、地域の活性化に繋がる場としての役割を目指す。また、トイレ及び駐輪場の運営にあたっては、施設の安全性や利便性の向上に努めながら、案内所と一体的な活用を行う。											
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由										



令和2年度 事業評価		協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
		対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	4
5 ← できた	4 ← 少しで きた	3 → どちら とも言 えない	2 → あまり できな かった	1 → できな かった	
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	5	
	自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	5	
		(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。			
	自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	3	3	
		(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。			
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	5	
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	5	
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	5	
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	4	
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4		
		評価点	34	40	

総合点	74
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	観光案内所としての業務に加えて、京終地域周辺を生活の場とする人々の交流の場を提供するような取組を行うことができた。	協働により自分達が足りない部分が補われ、その結果地域に良い運動が生まれ、昨年より素敵な地域に近づいていけたと感じる
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	観光客や地域住民が安心して利用できる施設にするため、行政と特定非営利活動法人京終で情報交換しながら、協力してトラブルの予防及び対策を行っていききたい。	管理運営を進めるなかで、喫煙、落書き、小火、破損等のトラブルがあり、地域の利用マナー向上と意識の変革があればさらに良い地域になるのではと感じています。上記の予防を含め準備して対策が少しずつ行きたると助かります。

協働事業

No.	76	事業名	奈良工芸フェスティバル									
部名	観光経済部				課名		産業政策課					
総合計画上の位置付け	章	第6章		経済			展開方向	③	産業の支援と地域経済の活性化			
	基本施策	6-04		商工・サービス業				奈良の伝統工芸と伝統産業の継承・発展のため、制作体験やイベント、インターネットを通じて情報発信を行い、工芸品等の販路拡大に努めます。また、緊急の課題である伝統工芸の後継者問題については、研修制度等により育成を支援します。				
	施策	6-04-01		商工・サービス業の振興								
相手方の名称		工芸作家				協働事業の実施手法		共催				
実施の時期		年1回				事業開始年度		平成元年度				
令和2年度事業費		予算額		543		決算額		6		(単位：千円)		
事業の概要・目的		毎年、秋期の正倉院展期間中に合わせて、なら工芸館では「奈良工芸フェスティバル」を開催し、一刀彫・赤膚焼等の工芸作品の特別展示、制作実演・体験などを通じて、奈良工芸に対する理解と認識を深める。また工芸品を期間中、特別販売することで工芸の振興発展に努める。										
目標指標	指標名		来場者数の増									
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3			
			目標値	6,300	6,350	6,400	6,450	6,500	6,500			
		実績値		5,453	5,515	5,774	6,417	0				
令和2年度取組内容		新型コロナウイルス感染症の影響で開催中止となった。										
今後の方針		継続	拡大、縮小、廃止の理由									



令和２年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	—	—
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	—	—
←	←	→	→		自主性尊重	（行政） 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 （協働相手） 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	—	
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	（行政） 協働相手の自立化を進められましたか。 （協働相手） 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	—	
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	—	—
					相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	—	—
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	—	—
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	—	—
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	—	—
					評価点			

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

協働事業

No.	77	事業名	「奈良しみんだより」の英訳						
部名	総合政策部			課名	秘書広報課				
総合計画上の 位置付け	章	第7章	基本構想の推進			展開方向	① 市政情報の提供		
	基本施策	7-01	市政情報の発信・共有				市政情報入手についての市民ニーズの把握に努めるとともに、しみんだよりやホームページなど多様な広報手段を利用し、それぞれの特色を生かして連携することで、有効な情報発信を行います。		
	施策	7-01-01	開かれた市政の推進						
相手方の名称	奈良S・G・Gクラブ				協働事業の実施手法		事業協力		
実施の時期	毎月				事業開始年度				
令和2年度事業費	予算額		120		決算額		120		(単位：千円)
事業の 概要・目的	日本語が分からない外国籍市民等に市政情報をお知らせする								
目標指標	指標名		設置部数						
	単位	部／月	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	190	190	200	200	200	200
			実績値	198	195	195	200	200	
令和2年度 取組内容	行政は「奈良しみんだより」の掲載情報・資料を提供する。また印刷用紙を支給する。完成した英語版しみんだよりのPDFを市ホームページに掲載する。活動団体は「奈良しみんだより」の英訳、英語版の印刷・編綴、各施設への配置、PDFでの市への提供を行う。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価	
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5	
5 ← できた	4 ←	3 →	2 →	1 →	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5	
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5		
					自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	5		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5	
					相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5	
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	5	
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	5	
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	4	
					評価点			43	43

総合点	86
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価					A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	外国籍市民等が増加する中、市政情報の需要も高まり、しみんだよりの英語版は必須となっている。加えて令和2年度は、新型コロナウイルス感染症関連の記事（啓発、緊急支援等）がかなりの割合を占め、これらを外国籍の方に的確に情報発信することが、いままでは以上に求められた一年であった。奈良SGGクラブにおいては、英訳が難しい内容について臨機応変に対応していただき、緊急事態での情報発信の大きな助けとなった。令和3年度についても新型コロナウイルス関連の記事等の増大が想定されるため、より協働の必要性が高まると考えている。	「しみんだより」の翻訳は1993年から休みなく行っており、市内在住外国人への情報源になっていることを自負している。この一年は、従来からある内容だけでなく、新型コロナウイルス関連という最重要事項の迅速な発信にも寄与できたと思っている。今後はこれまで通り、イベント関係など幅広い記事もカバーして発信するように努めたい。行政側からは、原稿配信時から当方の翻訳手順に対して多大の配慮を頂いており、作業計画を立てやすくなっている。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	英訳する記事の選別については、外国人のニーズを一番よく把握しているSGGIに任する体制を維持する予定だが、緊急性の高い新型コロナウイルス関連の記事が増大していることを考慮に入れたら、市側から、英訳記事の指定を積極的に行うことも今後考慮に入れる必要があると考えている。	過去一年間は、新型コロナウイルス感染症の為、公民館や観光案内所などの公の場所が閉鎖されたことから、折角翻訳・印刷を行った英文版であるのに、必要とする人たちに充分行き渡っているのかと、危惧する時もあった。しかしこの事態が収束すれば、そういった懸念も減るので、先を見据え、いつでも新しいニーズに迅速に対応できるようにしていきたい。印刷に関しては、公的施設の閉鎖時も、行政側の理解ある支援に大いに助けられた。コロナウイルス感染症の為に配信部数が減少することもあったが、翻訳作業が滞ることはなかった。今後も増えると思われる在住外国人の方に、正確な情報をできるだけ速く提供すべく、行政と常に相談し、さらに当方でも工夫を重ねて、この活動を継続したい。

協働事業

No.	78	事業名	まちづくり振興事業「月ヶ瀬地域振興協議会」							
部名	市民部		課名	月ヶ瀬行政センター地域振興課						
総合計画上の位置付け	章	第7章	基本構想の推進			展開方向	②	市政に対する提言、要望等の反映		
	基本施策	7-01	市政情報の発信・共有				「新市建設計画」を着実に実施し、月ヶ瀬地域振興協議会の活動を通じて、市政に対する提言、要望等をまちづくりに反映させます。			
	施策	7-01-01	開かれた市政の推進							
相手方の名称	各種団体・自治会等				協働事業の実施手法		実行委員会・協議会			
実施の時期	通年				事業開始年度		平成17年度			
令和2年度事業費	予算額		1,700		決算額		493	(単位：千円)		
事業の概要・目的	月ヶ瀬地域における将来のまちづくりについて協議を行うほか、地域の振興等を図り、もって奈良市の発展に資する。									
目標指標	指標名		会議の開催回数							
	単位	回	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
			目標値	24	24	24	24	24	24	
令和2年度取組内容			実績値	13	14	14	12	8		
			行政として、イベント補助金の交付、市・県等関係課及び機関等への連絡調整、協議会事務局として支援を行う。活動団体としては、地域のまちづくりに関することや新市建設計画に伴う要望活動、進捗状況に関するこの会議の開催、地域伝統文化の保存及び振興に関すること、地域イベント等の企画及び実施に関すること（スポーツフェスティバル・駅伝大会・早春マラソン大会）等を行なう。しかし、2年度は新型コロナウイルス感染症予防のためすべてのイベントを中止した。							
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由								



令和２年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	4
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 → できた 少 し で き た ど ち ら と も 言 え な い あ ま り で き な か っ た で き な か っ た	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4				
	自主性尊重	（行政） 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	4				
		（協働相手） 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。			4			
	自立化	（行政） 協働相手の自立化を進められましたか。	4	4				
		（協働相手） 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。			4			
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5				
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4				
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4				
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4				
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4				
評価点			37	37				

総合点	74	総合評価					B
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	



	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	地域の振興を目的として地域の団体が連携し、事業を企画、実施し、自主運営による地域コミュニティの形成ができた。	地域イベントについては、今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため中止としたが、その準備段階で地域団体等連携し活性化に向けての取組みができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	地域組織としての自主的な活動の充実強化のため、リーダー、後継者の育成が不可欠であり、自立化を進め行政との役割分担を明確化し、今後の組織の在り方、方向性について具体的な検討の場を持ち、話し合っていく必要がある。	自立化に向け組織の在り方等話し合っていく必要があるので引き続き協働を図っていきたい。

協働事業

No.	79	事業名	都祁まちづくり協議会											
部名	市民部			課名	都祁行政センター地域振興課									
総合計画上の位置付け	章	第7章	基本構想の推進				展開方向	②	市政に対する提言、要望等の反映					
	基本施策	7-01	市政情報の発信・共有					新市建設計画を推進するため、都祁まちづくり協議会の活動を通じて、市政に対する提言、要望等をならづくりに反映させます。						
	施策	7-01-01	開かれた市政の推進											
相手方の名称	地域住民（都祁まちづくり協議会）				協働事業の実施手法			補助・助成						
実施の時期	通年				事業開始年度			平成17年度						
令和2年度事業費	予算額		3,500			決算額		515		（単位：千円）				
事業の概要・目的	1. 住民要望の取りまとめ及び新市建設計画の進捗に関すること。2. 地域間交流事業（農業体験交流事業）3. 地域振興事業（都祁高原マラソン大会）													
目標指標	指標名		利用者数の増											
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3					
			目標値	1,600	1,620	1,640	1,660	1,680	1,680					
			実績値	1,487	1,596	1,577	1,652	0						
令和2年度取組内容	都祁地域の自治会・自治連合会へ協力を呼びかけ、住民要望の取りまとめを行う。例年、地域交流事業として実施している農業体験交流事業、地域振興事業の一環として多くの市内外からの参加者がある都祁高原マラソン大会については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から今年度は実施を中止した。次年度以降の実施に向け、安全で安心して参加していただける事業を検討するとともに、都祁の名を各地に発信し地域活性化に繋げていく。													
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由												



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 (協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	4	
←	←	→	→		自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	3	
						目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4
できた	少し できた	どちらとも 言えない	あまり できなかった	でき なかつた	相互補充	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	—	—
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	4
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	4
評価点							30	31

総合点	61
行政・協働相手の評価点を合計して算出 （※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	一体的なまちづくりのための新市建設計画の推進を行っている。また、今年度は新型コロナウイルスの影響で農業体験交流や都祁高原マラソン大会を開催することができなかった。	都祁地域のため、互いの特性を発揮し、各種会議等での情報共有が図れ地域の活性化につなげることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	自主的な活動の充実と、強化のためリーダーの養成と後継者の育成。	行政との関わりや、協働における役割分担の明確化。

協働事業

No.	80	事業名	地域ミーティング									
部名	市民部			課名	地域づくり推進課							
総合計画上の位置付け	章	第7章		基本構想の推進				展開方向	①	市民参画及び協働の推進		
	基本施策	7-02		市民参画・協働					市長が地域に出向いて地域活動に取り組む各種団体と対話を行い、地域の課題に対する認識を共有し、協働して解決に向けて考える場として、「地域ミーティング」を開催し、地域と行政が協働して、住みよいまちづくりの実現のために取り組めます。			
	施策	7-02-01		市民との協働による市政運営								
相手方の名称		奈良市自治連合会				協働事業の実施手法		共催				
実施の時期		通年				事業開始年度		平成25年度				
令和2年度事業費		予算額		0		決算額		0		(単位：千円)		
事業の概要・目的		市長が直接地域に出向き、地域活動に取り組む各種団体の役員と対話を行う中で、地域課題に対する認識を共有し、地域・行政が協働して解決に向けて考えていくことを目的に、平成25年10月から「地域ミーティング」を実施。平成30年11月からは、より多くの地区で実施できるよう、中学校区単位で実施している。 (平成29年12月～平成30年7月は、奈良市自治連合会のブロックを単位として、市長が地域を訪れ、地区の主要四団体の役員との対話を通して情報共有と一層のパートナーシップの強化を図ることを目的に「地域の未来についての懇談会」として開催)										
目標指標	指標名		開催地区数									
	単位	地区(R1～は中学校区)	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3			
			目標値	30	35	40	15	17	11			
		実績値		23	25	31	8	0				
令和2年度取組内容		中学校区ごとに開催調整を行い、順次地域ミーティングを実施する予定であったが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催しなかった。										
今後の方針		継続	拡大、縮小、廃止の理由									



令和２年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
5 ← できた	4 ←	3 →	2 →	1 →	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	—	—
					相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	—	—
					自主性尊重	（行政） 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	—	
						（協働相手） 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		
					自立化	（行政） 協働相手の自立化を進められましたか。	—	
						（協働相手） 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	—	—
					相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	—	—
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	—	—
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	—	—
				期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	—	—	
評価点							0	0

総合点	0	総合評価				
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18



	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	令和2年度は開催できなかったが、地域ミーティングの開催により、地域課題について地域・行政双方が認識を共有するとともに、その課題解決につながることを期待できる。	地域にとっては行政と地域の情報共有、課題解決のためには大きな意味を持つ。コロナ禍で開催できなかったのは残念だが、ぜひとも開催できるように考えて行きたい。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	開催方法については随時見直しを行いながら、より多くの地区で実施できるよう進めていきたい。	オンライン開催も含め、是非開催を。

協働事業

No.	81	事業名	HUG ² （はぐはぐ）祭り						
部名	市民部			課名	地域づくり推進課				
総合計画上の 位置付け	章	第7章	基本構想の推進			展開方向	①	市民参画及び協働の推進	
	基本施策	7-02	市民参画・協働				市民参画と協働によるまちづくりを総合的・計画的に推進するために、本市で実施し、又はこれから実施しようとする協働事業を実施計画として策定した「奈良市市民参画及び協働によるまちづくり推進計画」に基づき、市民参画と協働を進めていきます。		
	施策	7-02-01	市民との協働による市政運営						
相手方の名称	市民公益活動団体				協働事業の実施手法	事業協力			
実施の時期	5月～12月				事業開始年度	平成26年度			
令和2年度事業費	予算額		50		決算額	0		（単位：千円）	
事業の 概要・目的	市民に、ボランティアや市民公益活動団体の様々な活動について知っていただくとともに、その魅力を伝え、ともに活動したり支援したりするきっかけをつくり出すこと、また市民公益活動団体の情報交換や交流の機会創出を目的に、ボランティアインフォメーションセンターにおいて、HUG ² （はぐはぐ）祭りを開催する。								
目標指標	指標名		HUG ² 祭り参加者数						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	660	695	760	780	800	400
			実績値	770	744	1,146	1,296	-	
令和2年度 取組内容	新型コロナウイルス感染予防の観点から、今年度の開催は中止とする。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
54321 ←←→→ でき た 少 し で き た ど ち ら と も 言 え な い あ ま り で き な か っ た で き な か っ た	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		—	—			
	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。		—	—			
	自主性尊重	（行政） 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。		—				
		（協働相手） 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		—				
	自立化	（行政） 協働相手の自立化を進められましたか。		—				
		（協働相手） 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		—				
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。		—	—			
	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。		—	—			
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。		—	—			
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。		—	—			
期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。		—	—				
評価点				0	0			

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 （※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

協働事業

No.	82	事業名	児童館運営事業						
部名	子ども未来部			課名	子ども育成課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉			展開方向	② 児童の健全育成と子育ての支援		
	基本施策	3-02	子育て				児童館においては、児童の健全育成とともに市民との協働による子育て支援の拠点として事業を展開し、貸館や児童館の自主事業の広報を充実することにより利活用の促進に努めます。		
	施策	3-02-03	子育てと仕事の両立支援						
相手方の名称	公益財団法人奈良市生涯学習財団				協働事業の実施手法		指定管理		
実施の時期	随時				事業開始年度		令和2年度（指定管理者制度導入年度）		
令和2年度事業費	予算額		120,607		決算額		103,655		(単位：千円)
事業の概要・目的	子どもと長期的・継続的に関わり、遊びを通して子どもの発達を図る。また、地域の中での子どもの居場所、遊びの拠点となることを目指し、安定した日常生活を支援するとともに、子育て家庭に対する相談・援助を行い、地域における子育てを支援する。また、子育て支援の拠点として、乳幼児とその保護者に対して遊びや交流の場、様々な情報の提供を行い、安心して子育て・子育てができる環境を整備し、子育て支援機能の充実を図る。								
目標指標	指標名		児童館（4館）の利用者数						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	39,700	39,100	38,500	38,000	38,000	19,000
			実績値	34,395	31,266	30,376	24,980	19,075	
令和2年度取組内容	地域の中での子どもの居場所、遊びの拠点として各種事業を実施するとともに、子どもの安定した日常生活を支援することができた。あわせて、新型コロナウイルス感染症流行により休所となった期間もあったものの、就学前の児童と保護者の交流、子育てについての相談、情報提供等を行う地域子育て支援拠点を大宮児童館を除く3館で開設し、新型コロナウイルス感染症流行下においても、子育て親子が安心して利用できる居場所づくりを行った。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和2年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	4
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	3
					自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
自立化	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		4					
	できた	少しで できた	ど ちらとも 言えない	あ まりで きな かつた	でき な か つた	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	4	
(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。							4	
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
					相互補充	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	3
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	3
評価点							35	32

総合点	67
行政・協働相手の評価点を合計して算出（※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出）	



総合評価				B
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	指定管理1年目であるにもかかわらず、新型コロナウイルス感染症流行の状況となったが、臨機応変な対応や日々変わる状況にも、互いに協議しながら適時対応することができた。	市の方針を共有し市と協議を行いながら取り組んだ結果、指定管理者として1年目の年であったが大きな混乱もなく、子どもたちが安心して活動できる居場所を提供することができた。また、子どもたちが遊びを通じて成長しえるように支援できた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	市の方針と指定管理者の方針の擦り合わせなど、直営に比べさらに事業への理解や働きかけが必要となった。今後も、指定管理者との協議のもと適正に事業を実施する必要がある。	児童館が子どもの育成における重要な役割を担っていることを認識するためには、より一層の連携と意識の共有が必要と考える。老朽化する施設・設備などについても情報共有を行いながら、子どもたちが安全に利用できるような施設運営に努めたい。

協働事業

No.	83	事業名	交通安全指導員会						
部名	危機管理監			課名	危機管理課				
総合計画上の 位置付け	章	第4章	生活環境			展開方向	③	地域の防犯力の強化	
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全・安心(防災・消防・防犯・交通安全)				交通安全指導員により、市民に対して交通安全思想の普及と交通安全意識の啓発及び正しい交通道徳の確立を図ります。		
	施策	4-01-03	交通安全						
相手方の名称	交通安全指導員会				協働事業の実施手法		補助・助成		
実施の時期	通年				事業開始年度		平成28年度		
令和2年度事業費	予算額		1,823		決算額		1,795	(単位：千円)	
事業の 概要・目的	交通事故を防止するため、交通安全思想の啓発、正しい交通ルールの実践及び指導、交通環境の巡視などの活動を実施する。また、交通対策協議会の構成団体として交通安全運動各行事等に参加し啓発活動を行う。								
目標指標	指標名		人身事故発生件数						
	単位	件	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
			目標値	1,280	1,270	1,260	1,250	1,240	1,230
			実績値	1,184	1,209	1,032	842	728	
令和2年度 取組内容	迷惑駐車・違法駐車等防止の啓発活動や、各地域の実情に合わせた見守り巡回活動、交通安全に関する安全点検などの活動を、各地区において自治連合会会長から推薦された交通安全指導員で行った。								
今後の方針	継続	拡大、縮小、廃止の理由							



令和２年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	5
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
←	←	→	→		自主性尊重	(行政) 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
						(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	(行政) 協働相手の自立化を進められましたか。	3	
						(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	5
					相互補充	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	3
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	3
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	3
					評価点		33	35

総合点	68	総合評価					B
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	



	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	迷惑駐車・違法駐車等防止の啓発活動や、各地域の実情に合わせた見守り巡回活動、交通安全に関する安全点検などの活動は地域に根差した視点が重要であることの相互理解が深まった。	市、警察、市民がコミュニケーションをとり事業を進めることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	当事業の目的や主旨について、定期的に開催される役員会等で意見交換をしている。各地域ごとの交通安全に関する懸案事項について、認識の共有と問題点の改善を図るため、より一層の情報共有と相互理解を図りたい。	地域活動の担い手が不足しており、高齢化が進んでいる。1人が複数の役職を兼任することもあり、対策が必要である。

協働事業

No.	84	事業名	平城・相楽ニュータウンパワーアップビジョン検討会議						
部名	都市整備部			課名	都市計画課				
総合計画上の 位置付け	章	第5章	都市基盤		展開方向	①	安全で快適な居住空間の整備促進		
	基本施策	5-07	居住環境			「奈良市住生活基本計画」に基づき、関係部局が連携して、奈良らしい住みよいまちづくりを推進するための住宅政策に取り組みます。			
	施策	5-07-01	居住環境の整備促進						
相手方の名称	木津川市、精華町、UR都市機構西日本支社、関西文化学術研究都市センター㈱、(公財)関西文化学術研究都市推進機構			協働事業の実施手法		事業協力			
実施の時期	通年			事業開始年度		令和2年度			
令和2年度事業費	予算額		3,430		決算額		1,140		(単位：千円)
事業の 概要・目的	奈良市、木津川市及び精華町の2府県3市町にまたがって位置し、令和4年にまちびらき50周年を迎える「平城・相楽ニュータウン」において、将来にわたって良好な街として持続し、誰もが安心安全に暮らせる魅力あるまちを目指し、人口減少・高齢化への対応、新規住民を呼ぶ魅力化、住民・行政のニーズの反映を図るための街の活性化ビジョン作成について、行政圏域の垣根を超え、官民連携で取り組むもの。								
目標指標	指標名		「平城・相楽ニュータウンパワーアップビジョン」策定						
	単位	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
		目標値							
		実績値							
令和2年度 取組内容	令和2年7月頃から令和3年2月頃に掛けて計4回程度の会議を開催し議論を進める。想定している内容は(1) 現況及び将来推計の整理、課題の抽出(2) これからの時代のまちづくりに向けた情報収集、有識者ヒアリング等(3) パワーアップビジョン案の検討(4) テーマ別の取組み案の検討等。併せて住民アンケート・関係者ヒアリングを行う予定。								
今後の方針	完了	拡大、縮小、廃止の理由							



令和２年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	4
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
←	←	→	→		自主性尊重	（行政） 協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。 （協働相手） 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。	5	
できた 少しかつた どちらとも言えない できなかった					自立化	（行政） 協働相手の自立化を進められましたか。 （協働相手） 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。	4	
					目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
					相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
					公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	5
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
					評価点			

総合点	78
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価					A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	・令和2年度に「平城・相楽ニュータウンパワーアップビジョン検討会議」を立ち上げ、地域住民へアンケートやヒアリング調査を実施し、専門家等へも意見を伺った。調査を通じて地域住民の住まひの状況やまちづくりへの思いを確認することができ、令和4年11月に迎える平城・相楽ニュータウンのまちびらき50周年に向けて、官民が連携してまちのビジョンを策定する大きな一助になったと考える。	・平城・相楽ニュータウンは、行政界をまたがって計画・開発された地区であることから、これまでなかなか「ひとつのまち」として街の将来像を議論する場がなかった。今回の検討会議の最大の成果はアウトプットとして、とりまとめた活性化ビジョン事業もさることながら、行政の枠組みを超えて3つの市町（奈良市、木津川市、精華町）の街づくり関係者がひとつのテーブルを囲んでこの街の将来像を議論して、取りまとめたプロセスそのものにも、大きな成果があったと考えている。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	・平城・相楽ニュータウン8住区自治会情報交換会議は継続されることから、率直な意見交換を通じて、ニューノーマル時代を見据えたまちづくりの具体案が創出されることを期待する。	・この検討会議はR2年度で終わったが、今回の議論の場を将来に渡り長く継承していくことが重要であり、その場を活用してまちの活性化に向け、官民が連携してできるものから順次、具体的な取組みが実現されていくことに期待する。